



## 目次

平和教育の深化に向けて(共同研究者：伊藤恭彦)…………… 1

### 〈小学校〉

地震・津波・すぐ避難!：命を守る判断と行動(4年総合的な学習) ……………	2
三保松原が世界文化遺産に登録された(6年総合的な学習) ……………	5
水はどこから：世界の水事情を知る(4年社会科) ……………	8
メダカの減少から環境問題について考える(5年理科) ……………	11
たべもののたいせつさをかんがえる(1年特別活動) ……………	14
今、地球で起きていること：食べ物がたりない(4年総合的な学習) ……………	17
学校に行きたくても行けない子ども(6年道徳) ……………	20
本当に中国って「最悪」?：国と国がなかよくする(5年社会科) ……………	24

### 〈中学校〉

途上国の飢餓について考える(3年社会科) ……………	33
児童労働について考える(3年社会科) ……………	37
友だちの意見を聞き考えを深める 明治維新(2年社会科)・コンビニを開店する(3年社会科) ……………	48

## 共同研究者の紹介

### 伊藤 恭彦

1961年名古屋市生まれ。博士(法学)。静岡大学人文学部教授を経て、現在、名古屋市立大学大学院人間文化研究科教授。専攻は、政治学・現代政治哲学・公共政策学。

著書に『多元的世界の政治哲学 ジョン・ロールズと政治哲学の現代的復権』(2002年：有斐閣)、『貧困の放置は罪なのか グローバルな正義とコスモポリタニズム』(2010年：人文書院)、『政治哲学』(2012年：人文書院)、『さもしい人間 正義をさがす哲学』(2012年：新潮新書)、その他共著、編書多数。



## 平和教育の深化に向けて ～子どもたちと地球的問題群について考える～

共同研究者(名古屋市立大学教授) 伊藤 恭彦

### 〈静教組立教育研究所の平和教育のとりくみ〉

教育研究所との関わりも20年近くになります。この間、教育研究所の平和教育についての考えは、「反戦教育＝平和教育」にとられることなく「いつでも、どこでも、誰でもできる平和教育」と整理され、現在もその考え方によって様々な実践的研究が行われています。『研究所レポート』Vol.43に収録された、理科教育の中で平和教育を実践する試みなどは、新しい平和教育の可能性を示すものだと思います。研究所の平和教育の背後には“(残念ながら)人間社会から対立をなくすことはできない”というリアリズムに立ち、対立や紛争を平和的に解決する力を養っていくという考えがあるのです。

平和的な問題解決が必要な場面は、地球的規模の問題から学級の中で起こる問題まで様々なところにあります。クラスの中でお互いを認め合いながら人と人との関係を学び、多様な子どもたちの共存を図ることも大事な平和教育だと考えます。もちろん、従来から行われてきた戦争の悲惨さを伝えるといった平和教育を排除するものではありません。戦争という暴力による方法が問題解決を遠ざけ新たな惨禍を生むことをリアルに伝えることも、当然、平和教育の中に組み込まれています。

### 〈地球的問題群〉

このような平和教育のあり方を前提にして、地球的問題群を切り口とすることについて少し触れます。地球的問題群は、20世紀の終わり頃から国連をはじめとした国際機関のなかで提起された、問題解決に失敗すると人類の滅亡につながってしまいかねない深刻な問題群のことです。

地球環境の問題もその一つです。温暖化がすすみ地球環境が変化すると、今まで耕作できた作物が作れなくなったり、海面の上昇が起きたり、生物の多様性が失われたりして、人類の存在をも脅かすこととなります。地球の人口70億人のうちおよそ10億人が栄養失調状態にあり、一方で10億人が飽食による様々な病気で苦しんでいるという問題もあります。地球の穀物生産量は約130億人をまかなうと言われているのに、飢えた10億人が存在しています。このような人類全体に関わる問題は、それぞれの国という単位での対応だけでは解決できません。解決には地球規模での協働が必要だということが認識されはじめています。

### 〈地球的問題群を子どもたちと考える ●相手の立場に立ってものごとを考える〉

地球的問題群は、「白黒がはっきりしない」「白黒をつけることができない」という“答え”を抱えています。相手の立場に立つことによって、それまでとは違う利害が顕わになり、ある一つの切り口をもって白と黒に分けることが益々難しくなるからです。深く学べば学ぶほど白黒ははっきりさせることが難しく、(答が)グレーになっていきます。しかしながら、地球的問題群を考えるには、相手の立場に立つことが必要です。相手の立場に立つことによって初めて地球的問題群が見えてくるからです。

私たちは日本で生活し、ものを考え、行動しています。完全に相手の立場に立つことはできませんが、相手の立場に立って考える、想像の世界で相手と立場を入れ替えてみるということが出来ます。視点を入れ替えることによって、“途上国の人々はこの問題をどのように見ているのだろうか”と考えることが出来ます。おいしい食べ物がたくさんあり食べることが出来る、という現状を一旦はなれて違う視点から見て考える。それが多面的にもものを見るということだと考えます。

グレーゾーンに立ちながら「ああでもない、こうでもない」と悩む。その中には「おいしいものを食べることがいいことだ」と判断する子どももいるでしょう。それはそれでいいと思います。大事なことは、“相手の立場からものを見る”“自分のもっている視点を一旦離れて相手の立場に立って考える”“多面的にもものを見る”ということです。平和的な問題解決の根幹はここにあると考えます。

私の立場、私の利害に固執するがぎり、相手を攻撃することで問題解決を図ることになってしまいます。“相手の言い分も聞き、相手のことも理解する”といったプロセスがなければ、平和的に問題を解決することはできないと思います。

難しい課題ですが、私たちには、これからの時間を生きる子どもたちに地球的問題群を伝え、共に考える責任があると考えます。

## 地震・津波・すぐ避難！ ● 命を守る判断と行動

総合的な学習の時間に防災についての勉強をしています。海に近い学校ですから、地震・津波対策が大きな課題です。年間10回の防災・避難訓練を実施しています。東日本大震災から時間が経ち、地震・津波に対する意識もやや薄くなっているように思います。東日本大震災について振り返りながら、地震や津波から自分を守ることにについて考えたいと思いました。

### 実践報告

#### 学習の流れ

- ① 消防防災センターと警察署の見学
  - ・消防署の仕事や救急活動について見学し、話を聞く
  - ・地震体験と津波からの避難についての話を聞き、学んだことをまとめる
- ② 東日本大震災って何が起きたんだろう
  - ・東日本大震災について調べる
  - ・東日本大震災のビデオを見る
  - ・学校にある防災施設について調べる
- ③ 我が家の防災と地域にある防災施設や設備について調べる（家族と一緒に：夏休みの宿題）
- ④ 「地震・津波・すぐ避難！」の大切さを知ろう
  - ・静岡県庁危機管理センター・地震防災センターを見学する（社会科見学）
- ⑤ 調べたことを新聞を作って知らせよう
- ⑥ 学習発表会で、地域の人に「地震・津波・すぐ避難！」を知らせよう



### 授業についての話し合い

(◎…授業者 ○…所員)

#### 〈避難訓練の仕方が変わった〉

◎震災直後に現地に赴き救援活動に参加した方が保護者の中にいました。その方から被災地の話を聞き、写真を見せていただきました。子どもたちは真剣に話を聞いていました。

○年間10回の防災訓練内容はどのようなものですか？

◎地域的に津波の危険が予想される学区です。始業前や休み時間、下校途中など様々な場面で避難訓練を行っています。3.11以後、学校での防災訓練の様子がかなり変わりました。子どもたちに事前に訓練の実施を知らせないで避難訓練を実施するというのもその一つです。子どもたちに、とっさの判断や日頃から地震や津波が起きることを考えて行動することを意識させることがねらいです。10回の避難訓練の中には、不審者や火災への対応も含まれています。

○自分の地区でも海に近い学校では年間10回ほどの訓練を計画しています。同じ市町の中でも学校の立地条件によって違いがあります。自分の地区では津波から避難することを想定して高台への道や階段などを整備することが始まっています。

## 〈避難のマニュアルと臨機応変な判断〉

- 自分の勤務する学校では、臨機応変な行動ができることを考え、訓練計画を立てています。訓練を予告無しで行うことはそれをねらったものです。始業前や休み時間などの避難訓練も同じです。帰りの会の前や下校途中の訓練なども行っています。
- 「釜石の奇跡」と言われた学校がありました。子どもが犠牲になった学校もありました。両方の学校とも教職員は子どもの命を守ることを考えて、避難誘導をしたことには変わらないと思います。そのときの教職員の判断について評価や非難することはどうでしょうか。自分に置き換えても、どのような判断をしたらいいのかあたふたとしてしまったのではないかと思います。いざというときの教職員の判断についても訓練が必要だと思います。
- この委員会のテーマとして、多面的に物事を見る力を育てることと相手の立場を理解しながら話し合いで問題解決するということがあります。それと、防災教育ということがどのようにつながっているかを考えていました。臨機応変ということが議論されましたが、自分が情報を持ち、自分が判断を下す余裕をもつことが多面的に物事を見るということにつながるのかな、と思いました。静岡県では、巨大地震や津波の危険から子どもを安全に守るといったことは非常に大きな問題です。再度、岩手県を訪ね、地震や津波からどう子どもたちを守ったかなどについて見聞きしてくる予定でいます。
- 「津波てんでんこ」ということを聞きました。予告無しの避難訓練を行うと、子どもの行動はバラバラです。休み時間に避難訓練をしたとき、運動場から走って教室に戻る子どもがいました。「地震が起きたら机の下に潜る」ことを忠実に守るために運動場から駆け戻って教室の机の下に潜ろうとしていたんです。いろいろな行動のパターンを身につけ、そのうちのどれを選んだらいいか判断できるようになると自分の命を守るという最終的な目標に近づくことになると思います。避難の原則は原則として身につけたうえで、その場での臨機応変さをもつということが大事だと思います。

## 共同研究者からひと言

多面的なものの見方ということと防災がどのように関わっているのでしょうか。ある意味、防災というのは多面的にものを考えていてはだめな場面だと言えます。命を守ることに向かってまっしぐらに行動することが求められます。矛盾した言い方ようですが、いざそのような事態に直面したとき、行動する力が発揮されるには、多面的に考えていることが必要です。小学生にそれができるのかどうかはわからないところですが…。私は住んでいるところ（名古屋市）で防災委員をやっています。「防災計画を作ってくれ。それに従うから」と言われますが、防災ということとはそういうものではないと思います。街の中に住んでいる人が話し合いをして、相手の事情やいろいろな人が住んでいるということがわかっていることが大事なことだと思います。小さな子どもがいるとか、歩くのが不自由なお年寄りがいるとか…。そういうことを知っていることが、いざというときの力になるのだと思います。



各学校でとりくまれているように、あえて指示が曖昧な状況をつくりながら防災訓練をすると混乱します。混乱した過程でどうしたらいいかを考える。そういったことが命を守る力になるように思います。こういう人もいる、ああいう人もいるということをつないで考えていくことです。最終的には危険から逃げ、命を守るという目的に絞られるわけですが、そこに行き着く過程として多面的なものの見方が最善な行動にどうつながっていくかということ。そこが防災と多面的なものの見方をつなぐ鍵だと思います。

## 原則的な避難マニュアル+臨機応変な判断：「津波てんでんこ」

海に面して建てられた釜石東中学校は、津波による被害が心配され、地震・津波に対する防災意識も高かったと言われています。2013年10月、釜石東中学校の「津波てんでんこ」について、分会長のM先生から「原則的な避難マニュアルにプラスαの臨機応変な判断」についてお話をうかがいました。

### 〈地震、逃げる！：最初の避難場所に〉

Q：M先生は震災のときに東中に勤務されていたんですか？

A：いました。子どもたちと一緒に逃げました。最初の避難場所（学校から700mほど緩い坂道をのぼったところにあるグループホームの駐車場）まで、隣の鶺住居小学校の特別支援教室の子ども、怪我をしている中学生を車に乗せて、養護教諭が持ち出した毛布とか、救急用の薬品なども積んで車で逃げました。

Q：けがをしている子の避難や医薬品をもって逃げるといった役割分担はあったんですか？

A：役割分担を決めてあったわけではありません。普通の状態なら教頭先生が「避難しなさい」と放送するところですが、放送の前に子どもたちは避難を始めていました。誰だったかな、「避難しろ」と声をあげた先生がいて、私が「逃げる」と言おうとした時には何人かの生徒は学校の前の道路を走っていました。部活が始まった時だったので、外にいた野球部、サッカー部などが走り出していました。

Q：とっさに、足の悪い子どもを車に乗せるという判断をしたんですか？　そういう訓練はしていたのですか？

A：訓練もしていました。リヤカー出して乗せたり、おんぶしたりするとか。だけど、あのときは揺れが大きかったし長かったので、子どもたちは走り出していましたね。卓球部の子どもたちが「先生どうしたらいいかな」と言いました。ちょっと様子を見ようかと思いましたが、走って逃げている生徒が見えたので、「お前たちも逃げる。2階をつないでいる通路の下は危ないから、校舎を回って逃げる」と言いました。職員室に行ったけれど、本などが散乱していました。職員室前に自分の車を停めてあったのは偶然です。見ると装具を付けた生徒が歩いていたからその子を車に乗せて、毛布なども積みました。「特別支援教室の小学生も乗せていいかな？」「いいさ、なんぼでもいいから乗せろ」と、その子も乗せて（最初の避難場所まで）行きました。

Q：よく毛布も積むことや救急用の医薬品を積むことなどに気が回りましたね。

A：そんなに多く積んだわけじゃないですよ。養護教諭が保健室からもってきた毛布や薬を積みました。

### 〈最初の避難場所から第2次避難場所へ〉

Q：第2次避難場所へ移動の判断は？

A：最初の避難場所の裏の崖が崩れてきた。小学生が奥の方（山側）に入ってたので、M先生や教頭先生などと「やばいんじゃないか」と子どもたちを（崖から離そうと）前に寄せようとしたとき「津波がくるから逃げる」という声がありました。そこから子どもたちに坂道を走らせて、さらに400mほど離れた農協の屯所（第2次避難場所）に移動しました。

Q：車で？

A：子どもたちもいるので鍵を付けて車はおいて。第2次避難場所で初めて後ろを見て「おおっ」とびっくりしました。私は津波が後ろまで来ているのに気付くのが遅かったんです。子どもは津波が押し寄せるのを見ていたので、「ここも危ないんじゃないか」と、さらに500m坂道を登り逃げたんですよ。私は、まだ下の方から逃げて来る人に、できるかぎりの声で「はやく逃げる、逃げる」って叫んでいました。

### 〈てんでに逃げる：逃げ遅れた子の心配は？〉

Q：子どもたちがまだどこかに残っているんじゃないか、という心配はなかったんですか？

A：心配がなかったわけではないんだけど…、最初に避難した場所（第1次避難場所）で点呼はとっているの、校舎に残っていることは考えなかったですね。

Q：最初の避難場所までは、（逃げ遅れた子がいることを）心配しながら、逃げるしかないということですか？

A：そうですね。一番後ろを校長先生が来ているということもわかっていたので、校舎には残っていないと思いました。むしろ、学校を休んでいた子やすでに帰宅した子どもたちのことが心配でした。

Q：小学校とは、ふだんから連携を取り合っていたんですか？

A：全職員が集まって話し合うということはなかったけれど、担当者や教務主任さんの間ではしていました。避難訓練も1年に1回、小学生と一緒に訓練はしていました。

Q：地震が来たらまず、机の下に避難して、揺れが収まったら廊下に出て点呼して、運動場に出て点呼してという訓練をしています。「てんでんこ」という避難方法についてもう少し聞かせてください。

A：「津波てんでんこ」ですが、みんなが勝手に逃げるということではないんです。避難場所は決めてあって、そこに逃げるのは「てんでに」ということです。ですから、避難したところで点呼をとるという流れは変わらないですね。地震発生するとき、子どもたちは部活のない3年生だけが、教室もしくは教室の近くにおいて、1・2年生のいた場所は放課後に近い状態でした。そのような状況で、子どもたちを一カ所に集めて点呼をとることは不可能です。揺れも体験したことのない大きさと長い時間だったから。ものすごく長かった。まだ揺れている、また強くなった、といった感じでした。子どもたちもそれを感じて「てんでに」逃げたんだと思います。

## 三保の松原が世界文化遺産に登録された

三保の松原が世界文化遺産に登録されたことを子どもたちがどう受けとめ感じているか、という素朴な疑問からスタートして、子どもたちの活動を追いながら物事を多面的に見るということについて考えたいと思いました。また、地域の世界文化遺産登録をどのように学習に生かすことができるのかということについても、子どもの視点から考えたいと思います。

### 実践報告

#### 世界文化遺産登録をどのような学習に生かすことができるのか（教員の考え）

- ・名勝保存会と協力して毎年1回行ってきた美化活動「クリーンアップ羽衣」の回数を増やす
- ・総合的な学習や生活科で世界文化遺産への登録をテーマにした学習を計画する
- ・全校で郷土愛をテーマにした道徳の授業を行う
- ・「羽衣伝説」を劇や紙芝居に表現する。合唱祭のとき「羽衣三題」を歌う
- ・図書室に「富士山、三保、羽衣伝説」などのコーナーを作る
- ・各教科でのとりくみ。国語…パンフレット作り、体育…運動会の表現運動で取り上げるなど
- ・三保地区の小学校4校、中学校2校、高校2校で「三保の松原：子どもサミット」を行う

#### 世界文化遺産登録に関して外部からの要請など

- ・テレビ番組への出演…特別番組に子どもたちを参加させてほしいというテレビ局からの要請
- ・市の記念式典への参加…三保地区の2小学校と1中学校の代表が市主催の記念式典で「三保への思い」を発表

### 学習の流れ

#### 学級の子どもに「三保の松原緊急アンケート」を実施

##### Q：三保の松原が世界文化遺産に追加登録されてどう思いましたか

うれしかった……………22人

どうとも思わなかった……3人

うれしくなかった……………2人

##### \*どうとも思わなかったと答えた理由

- ・世界遺産になっても子どもには関係ない
- ・どちらともいえない。地元の人がいへんになる。人混みや店が忙しくなる
- ・三保の松原じたいは何も変わらない

##### \*うれしくなかったと答えた理由

- ・車が多くなり、ひかれそうになった。松原のゴミが以前より増える
- ・人がたくさん来て混雑する。マナーが守られないと事故が起こりそう

##### Q：世界文化遺産に登録されて、今後どのようなことが予想されますか

##### \*良いこと

- ・三保が有名になる
- ・三保がにぎわう
- ・海外からもお客様が来る
- ・メディアが来る
- ・注目されると、きれいにしようといろいろな人が協力してくれる
- ・自慢ができる

##### \*悪いこと

- ・ゴミが増える
- ・車が増え渋滞が起きる
- ・他県の人や観光客の交通事故が増える
- ・不審者や事件が起きることが心配
- ・気軽に（三保の松原に）行けなくなる

## 夏休みの課題：どのように変わったか、松原の様子や地域の様子を見に行こう

- ほとんどの子どもが、三保の松原の様子を見に行った。富士山に行った子どもも3人いた
- ・他県ナンバーの車が多かった。渋滞も起きていた
  - ・三保の松原にたくさんの方がいた
  - ・ゴミは予想と違い、多くなかった。僕たちが心配したことが一つ消えた
  - ・(多くの子どもが)観光客に道を聞かれた。道案内をした。英語で話しかけられ驚いた
  - ・お店はとても混雑していた。店の人はうれしそうだった

## ◆◆◆ 今後の計画 ◆◆◆

### 富士山や三保の松原のことで、今後自分たちは何がどんなことができるだろう

- \*自分たちの力で、富士山や三保の松原についての情報を発信したい
- ・国語…パンフレット作り、三保の松原、清水区の紹介
  - ・総合的な学習…地域の老人養護施設を訪問して富士山・三保の松原に関するクイズや「天女の羽衣」の紙芝居を紹介する
  - ・修学旅行…ミニ観光大使(しおりやパンフレットを作り、三保の松原を紹介する)
  - ・外国語の勉強…簡単な道案内の英語を勉強する(外国人に道を尋ねられたが答えられなかった。外国語の授業で勉強したことが生かせなかった)
  - ・看板作りや清掃…場所を案内する看板が少ないので自分たちで看板を作りたい。松原の清掃。クリーンアップ羽衣の回数を増やす。卒業時の奉仕活動で清掃

子どもたちに地域を愛する気持ちを育てたい。自分たちで課題を見つけ、解決する力を身につけさせたいと考えています。

## ◆◆◆ 授業についての話し合い ◆◆◆

(◎…授業者 ○…所員)

### 〈世界文化遺産って何だろう：世界文化遺産について様々な視点から考える〉

- 世界文化遺産に選ばれて、地元の方はどのように感じているのでしょうか？
- ◎地元の方は選ばれたことについて喜んでいますが。土産物屋は、大勢の人でにぎわっています。臨時駐車場を設けるなど、訪れる人はすごく増えています。電線の地下埋設なども考えられています。津波の避難場所としての機能を持たせながら公園の整備も考えられています。地域の活性化や経済効果などに対する期待もあります。
- 世界文化遺産への登録をめざす大人の思惑に子どもが巻き込まれないことが大事だと思いますが、世界文化遺産への登録は、三保の子どもにとって後にも先にもない経験だったと思います。多少巻き込まれるのもいい経験だったかもしれません。子どもたちは、三保が富士山との密接な関係をもった文化遺産であることを、どう受けとめているのでしょうか。なぜ、富士山から遠い三保の松原が世界文化遺産に選ばれたのかということ子どもたちが考えることが、三保の松原の文化的な意味を理解することにつながると思います。
- 大人は、登録されたことによって地域が活性化することや、経済効果などを期待します。それはそれとして理解できます。「三保の松原は(世界文化遺産に指定されても)何も変わらない」という子どもの感想がありました。一見冷めているような感想ですが、三保の松原そのものは変わらないという指摘は、その通りだと思います。大人の思惑も含めて、世界文化遺産としての三保の松原の価値について、子どもたちが様々な視点から考えることが大事なことだと思います。

## 共同研究者からひと言

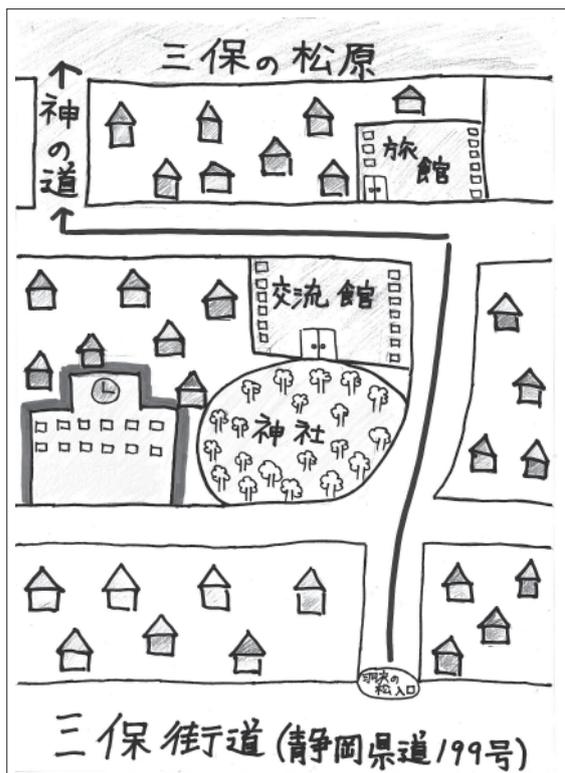


今年の夏、白川郷に行きました。白川郷も世界文化遺産です。車の乗り入れが規制されています。車で来た人は集落から離れた駐車場に1回500円でとめ、そこから歩いて合掌造りの集落を見学します。山の上に、合掌造りの集落が一望できる展望台があります。以前は車で行けたのですが、そこに行くためには片道200円を払って町営のバスを利用します。ぼくも行ったのですが、霧で何も見えませんでした。また200円払って戻りました。

「何も見えなかったのだから400円返せ」と運転手に言っている人がいました。運転手は困惑しながら、「(世界文化遺産に)登録された当初は、環境整備の補助金が付いたけれど、合掌集落を維持するためのお金がない。バス代は合掌集落の維持費なんです」と答えていました。いろいろな規制はかかっていると思いますが、世界文化遺産というものがビジネス化しているという面もあるように思います。かつて農家だったと思われる合掌造りの民家が、ほとんど土産物屋になっています。「伝統的な生活というものはどうなってしまったのだろう」などと考えながら帰ってきました。

三保の松原を白川郷と同じように考えることはできないと思いますが、世界文化遺産に登録されるということはどういうことなのか…。文化遺産としての環境を維持していくことと、生活を維持していくことをどのように共存させるかということが地域にとっても子どもたちにとっても大きな課題だと思います。世界的にメジャーなものになったことと、そこで生活するということのバランスをどうとっていくのかということです。

短期間では結論が出ないことですが、地元の子どもたちがこのことを継続して考えていくことは大切なことだと感じます。



## 水はどこから ● 世界の水事情を知る

安倍川は他の川と状況が違って表流水からの採水がほとんどなく、地下水脈が豊富で節水制限のない川です。学校は安倍川の取水場のすぐそばにあります。水が豊富にあるという恵まれた地域ですから、取水場を見学しても節水の切実感がわかりません。子どもたちは水はいつでもたくさんあると思っています。

### 実践報告

前時まで

\*安倍川では節水制限が行われたことは一度もありません。どうしてでしょう。

- ・地域の人や施設を訪ね、安倍川の水の豊かさについて知る。
- ・自分たちの生活と安倍川の関係がわかった反面、「水は無制限にある」という思いが子どもの中で強くなった。

### 学習の流れ

#### ① 私たちは水をどれくらい使っているのだろう

- ・普段、家でしているように「手洗い」「歯みがき」を行う
- ・口から吐き出した水も含めて、使った水をすべてペットボトルに入れて計測する



#### ② 世界では、一人1日あたりどれくらいの水を使っているのだろう

(一人あたりの1日に使用する生活用水の量を地域別に示す資料を提示する)

日本	356L
北アメリカ	428L
ヨーロッパ	280L
南アメリカ	277L
オセアニア	274L
アジア	132L
アフリカ	63L

水の使用量

- ・日本は水を使いすぎだ!
- ・アフリカがこんなに少ないのはなぜだろう?
- ・砂漠が多いから…
- ・雨が降らないからだ
- ・貧しいから? テレビでアフリカの子どもの様子を見たことがある

#### ③ 水の少ない国では、どのような生活を送っているのだろう

(資料:『まんがで学ぶ開発教育:世界と地球の困った現実』を提示)

- ・泥水を使っているから、病気にかかりやすく、死んでしまう子どもも多い
- ・子どもがお風呂に入っていない
- ・遠いところまで水をくみに行っている
- ・水がない生活はとてむたいへんだ

#### ④ 泥水を使っている人たちの暮らしの様子を見てみよう

(資料: DVD『ありあまるごちそう』)

- ・こんなに汚れた水を飲んでいるの
- ・こんな水飲むなんて、絶対無理だ



#### ⑤ 水の学習をふり返り、自分の考えを書こう



### 〈ペットボトルの水を買う〉

- 学生の頃、フィリピンの村から留学していた学生を訪ねたことがあります。水道が全部の家になくて、村に何か所しか蛇口がないといった状況でした。蛇口のあるところまで大きなバケツやタンクを持って水を汲みに行きます。そうして汲んできた水を少しすくって体を洗いました。日本では、水道の水よりもっとおいしい水を求めてペットボトルの水を買っています。コンビニにはいろいろな水が並んでいます。水に対する感覚も変わってきたように思います。
- ◎取水場に見学に行ったとき、係の人が「この水は本当にきれいだよ。ほとんど薬品を入れていないから、普通に飲んでいいんだよ」と繰り返し言いましたが、クラスのある子は「お母さんが水道の水は汚いから飲んじゃだめだって」とずっと言っていました。そのお母さんは地下水がきれいだということを知らないのだと思います。福島原発事故の時「水が危険だ」という噂が広がりました。そのときは自分も子どもが小さかったので「水道の水は飲まない方がいい」と水を買いましたが、大人でも、知らないということがないように思います。安倍川水系の地下水が豊富な理由について、水道課の人は「地下水の水脈は人間が作ったものではなく自然の恵みなのだ」と言っていました。
- テレビの番組で、井戸を掘っている場面がありました。人が生活するには水は欠かすことができないということです。たとえ汚く濁った水でも、生きるためにそれを何とか利用しなくてはなりません。あまりにも水が当たり前があるので水の大切さに気付かないということはあると思います。
- 水道の水を飲むか飲まないかの判断は、個人的なことだと思いますが、水に対する正しい情報を伝えていくことは大事だと思いました。
- 今は、上水道代とほぼ同じくらいの下水の処理代が請求されます。そういうことから水というものはコストがかかるということを考えることができるように思います。

### 〈意外と知らなかった水のこと：水の大切さを子どもたちに実感させる〉

- ◎水が豊富であるために水に対して無知なところがあったように思います。世界には水が不足している地域があるということを手がかりにして、自分たちと水との関係や地下水、水道について知ることができました。子どもたちも自分も、知らないということで噂に振り回されたりすることがあったように思います。
- 水のことを改めて考えると、水についてよく知らなかったり、無駄遣いをしていたりしたことがわかります。授業者の子どもへの問題提示の仕方は、使った水をペットボトルに溜めて子どもに意識させるなど工夫がされていました。そこから汚れた水を使わざるを得ない子どもたちがいることを資料や映像で示すことによって自分たちの生活とつなげて問題を捉えることができたと思います。

## メダカの減少から環境問題について考える

5年生の理科「メダカのたんじょう」の単元では、雄と雌の違い、卵からかえる様子、水の中には微生物がいてメダカの餌になっていることなどについて学習します。「メダカのたんじょう」の単元にコラムがあり、「メダカが減っている」ことが取り上げられていました。メダカが減少している原因として、メダカの餌となる微生物が減っていることが書かれています。環境について考えることを通して、子どもたちの多面的な考えを育てたいと考えました。

### 実践報告

#### 学習の流れ

最近、食べ物になる小さな生物が減っているために、自然の池にすむメダカが減っている。メダカを守るためにはどうしたらよいのだろうか。

##### 〈自然を守る〉

- ・川を汚さない
- ・川にゴミを捨てない
- ・川の近くで農薬を使わない
- ・川の清掃をする
- ・洗剤を使う量を少なくする
- ・流しても環境を悪くしない洗剤を使う
- ・油は固めて捨てる
- ・生ゴミはネットで集める

##### 〈メダカのすむところをつくる〉

- ・堤防のようなもので、メダカのすむところをつくる

- ・人の手でつくったものは自然ではなくなってしまう
- ・つくるときに自然が壊されてしまう
- ・壊れてしまったものを直すのだったら守ることになる
- ・すみやすい環境をつくるのだったら、よいと思う

自然を守るのはもちろん、すみやすい環境をつくることも大切なんだ

- ・川岸に草を植える
- ・魚が通る道をつくる
- ・堤防をつくるときに、魚のすみかになるところをつくる
- ・自然のものを使って堤防などをつくる

※世界でも生き物のすみかが壊されていることを紹介する

- ・生き物がたくさんすんでいて、酸素もたくさん出しているマングローブ林が荒廃している
- ・たくさんの魚のすみかになっているサンゴ礁が消えている

## 授業を振り返って：授業者から

子どもたちからは、メダカを守るには「自然を守る」「川を汚さない」など自分たちでできることが出されました。もう一つの意見として「堤防などでメダカのすむところを作る」という意見が出されました。それに対し、「メダカがすんでいる環境を守るのはいいけれど、新たに作るのは人の手が入るので自然ではない」「新たに作る時にそこにあった自然を壊すことになる」という意見が出て議論になりました。いろいろな意見が出ましたが、最終的には自然を守るということは、メダカがすみやすい環境を作るということも含まれるということに落ち着きました。

## 実践報告を聞いて●自然を保護することについて考える

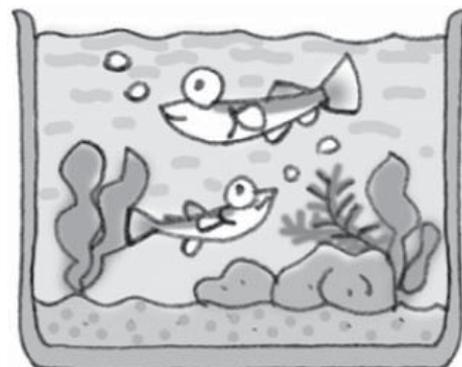
### 〈生物の数が減っていることについて〉

- 社会科の副読本をつくるため、由比漁協を訪ねた時に聞いたことです。駿河湾のサクラエビ漁は資源保護のため漁業協同組合で漁獲制限をしていますが、年々漁獲高が減少し、制限量までの漁獲がないということです。漁獲高が減っている原因について漁協の人は、「サクラエビの餌になるものが少なくなってきたということも考えられるが、わからない」と言っていました。
- 沼津市の浮島地区のメダカも、一時減ってしまいました。メダカに似ている小型の淡水魚のカダヤシが増えているということです。地域の人がメダカの保護するとりくみをしているということも聞いています。メダカを育てることを趣味にしている人のところから逃げ出したメダカもいるように聞いています。もともと浮島地区に棲息していたメダカと種類が違うものが増えているのかもしれませんが…。
- メダカの飼育を趣味にしている人からメダカをもらって育てていますが、「飼うのが飽きたときに川に放さないでくれ」と言われています。

### 〈自然ってなんだろう〉

- ピュアな自然ではなく、人間と自然との共生のなかでもメダカが棲息しています。メダカが減っているということは、ピュアな自然が壊れているということだけではなく、人間と自然との共生の関係が壊れているとも考えられるのではないかな。
- メダカは里山の生き物でもあったように思います。少し人の手が入るような環境にすんでいる。里山が荒れて、人の手が入らなくなると、水路などが途絶えてしまいメダカや水生昆虫などもすめなくなってしまうということもあるのではないかな。人間も自然を構成するメンバーの一つだと考えたらいいのではないかな。
- 5年生の子どもたちが、授業で使ったヒメダカをペットボトルに2匹ずつ入れて飼いました。3・4日したら、どんどん死んでしまいました。子どもたちは「水をきれいにしよう、きれいにしよう」と、水替えをして水をきれいにする薬品をたくさん入れた。その薬をたくさん入れた子どものヒメダカから死んでいったようです。そのとき、子どもと、「昔から学校にある池の中のメダカは生きてるね。誰も手入れをしないので緑色の濁った水の中で生きてる。餌もやらないし、水替えもしていないのに生きてるんだろうね」ということを話しました。

子どもなりに、ペットボトルの中にヒメダカが生きていく自然をつくりたかったんだと思います。子どもたちはヒメダカの死から、自然をつくり出すのは難しいということをしただけ学んだように思います。

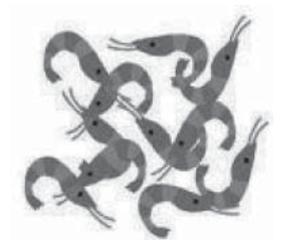


## 〈自然を守る〉

- 自然を守るという意見が色々出ています。水をきれいにしようという視点と、ゴミを捨てないようにしようというのは視点が少し違うように感じました。それぞれの視点から「自然を守る」ということを考えると、いろいろな意見が出てくるように思います。
- 自然を守るということは、単に環境をきれいにすることだけではないように思います。その環境にある生き物どうしの関係を崩さないということから考えていくのも「自然を守る」ことを考える視点になると思います。
- メダカが減っていることによって、メダカを餌にしている生き物にも影響が及ぶということもあるわけです。ザリガニがメダカを補食している様子は教科書にも紹介されています。食物連鎖というバランスを人間がむやみに崩さないということも自然を守るという視点になるように思います。
- 環境が変われば、それに適した生き物が繁殖する。自然を壊すのも人間の手が加わることだし、守るのも手を加えることです。一旦、人の手が加わったものは自然ではないと考えるのか、人も自然の一つと考えるのか。
- 環境を変える要因としては、火山の噴火や洪水などがありますが、それに匹敵するくらい大きな影響をもつものとして人間による開発や環境破壊があると思います。人の手が加わらないピュアなものだけが自然だと考えるのではなく、人も自然を構成するものの一つだと考えることによって「環境とどのように関わっていったらいいのか、関わるべきか」という議論ができるようになると思います。
- 子どもたちが「自然を守ろう、環境を保護しよう」という考えをもつことは大切なことだと思いますが、「メダカを守るために、メダカをたくさん放流しよう」と短絡するのは「自然破壊」ということにもなりかねないということも子どもたちに考えさせたいと思います。

## 〈わからないことも多い自然〉

- サクラエビの漁獲量を制限していることは知っていましたが、近年、サクラエビの漁獲高が制限量を超えずに下がってきている、という話を聞いてショックでした。漁獲制限量がゆるすぎることなのでしょうか。
- ◎漁協の人は、サクラエビの餌になるプランクトンが不足しているのではないかと、言っていました。水温のことも聞きましたが、「原因かどうかはっきりとしない」ということでした。水温の変化がプランクトンの量に関係することも考えられますが、原因と断定することはできないということでした。
- 海の生態系についてはほとんどわかっていないようです。ウナギの稚魚が減ったということは事実としてわかっているわけですが、なぜ減ったのかということにはわからない。ウナギの稚魚がある時期に日本の近海に現れるということも原因がわかっていないと言います。



## たべもののたいせつさをかんがえる

現在1年生を担当しています。給食を残す子どもが多いことが気になっています。残った給食を片づけるたびに、食べ物を大切にすることを育てたいと思います。栄養士さんの話を聞いたり、給食を作っている様子を（映像で）見たり、世界には食べ物が十分に食べられない子どももいることを知らせ、食への関心を高めたいと思いました。

### ◆◆◆ 授業の構想 ◆◆◆

#### 学 習 の 流 れ

- ①クイズ「〇小学校の給食の食べ残しは1日どのくらいあるでしょう？」
  - ・残量を具体的にとらえるように動物（象）の重さなどに置き換えて示す
- ②給食を食べるときのことを思いだしてみよう
  - ・給食を食べるときのことや、給食を残すことについて振り返る
- ③給食を作っている様子を見よう（ビデオで撮影した調理室の様子）。給食を作っている人はどんなことを思っ作ってくれているのだろう
  - ・給食を作っている人の立場に立って考えてみる
- ④食べ物を十分に食べられない子どもたちがいることを知っていますか（食べものをもらうために並んでいる子どもの写真を提示する）
  - ・世界には食べ物が十分に食べられない子どもがいることを知らせる
- ⑤自分たちができることを考えましょう

### ◆◆◆ 授業についての話し合い ◆◆◆

（◎…授業者 ○…所員）

#### 授業者から

配膳の量を変えていますが、食べきれないものが残量となります。少しでも嫌いな物が入っていると、給食終了の時間を見ながら残してしまう子どももいます。小学校1年生には難しいかも知れませんが、世界には食べ物が食べられずにおなかをすかせている子どもがいることを紹介しながら、自分の生活（給食を残してしまうこと）を振り返らせたいと思います。給食の残量を、子どもたちがイメージできる重さ（象の重さ）に置き換えて子どもたちに伝えようと思います。給食を作る人（調理員さん）の作業の様子や苦心などを映像で伝えようと思います。

#### 〈給食指導と食料の問題をつなげるのは1年生にとって難しくないか？〉

- 嫌いなものを無理矢理食べさせることはできないので、量を減らしたり、嫌いな物も一口は食べることを指導しています。食べられる量だけ分けて、あと残った物は食べられる子どもが食べ、学級として残さないとりくみをしています。食料の問題に結びつけるのは、1年生の扱いとして少し難しいのではないかと思います。
- 1年生はこの程度の理解という先入観にとらわれずに、伝えたいことや考えてみたいことを構想したところに共感しました。世界の子どもの中には飢えている子どもがいることを、子どもたちに提示することも検討していたと思います。確かに、1年生にとって難しいと思いますが資料を工夫すれば、子どもたちも考えることができるように思います。
- 飢えた子どもの写真や映像を提示することには疑問があります。衝撃的な資料を提示すると「かわいそう」で終わってしまうことが心配されます。自分たちの暮らしとつなげて考えることができる、手がかりになるような資料が必要だと思います。物を大切にすることや無駄を出さないということなども考える手がかりになるように思います。『もったいないばあさん』（講談社：創作絵本）は1年生でも十分に理解できる内容だと思います。

## 共同研究者からひと言

授業者も心配していますが、1年生に飢餓の様子をリアルに表した資料は、刺激が強すぎるように思います。大学生でも、食についての学習を深めていくと「自分は食べちゃいけないんだ」と考えてしまうことがあります。このような反応は、食や食料のことについて学ぶことで期待するものではありません。1年生には、普通に提供される食事（給食）は自分たちが育つ上でとても大切なんだということがわかること、そして、食べ物を作るのに多くの人が関わり苦労していることを学ぶことが大切だと思います。食べ物の大切さというものは非常に多面的に成り立っているということです。昔は、食べ物を誰が作っているのかが見えていましたが、今では誰が食べ物を作っているのが見えにくくなっています。作った人の姿が見えると簡単に食べ物を捨てることができませんが、食べ物についての人のつながりが見えないと、食べ物を捨てることに特別な感情を抱くことがなくなってしまいます。



食の問題は社会を見る上で非常に重要な切り口です。家庭で食にかける手間(コスト)が減っているという統計結果もあります。食品はあふれているが、食にかける手間が減っている社会の「豊かさ」を問い直すことも地球的問題群について考えることにつながると思います。

## 実践報告

### 学習の流れ

**T：給食で好きなものはなんですか 苦手なものはなんですか**

- ・好きなもの…ハンバーグ、コロッケ、カボチャ、さかな
- ・苦手なもの…トマト、しいたけ、ブロッコリー、ピーマン

**T：苦手なものがあつたとき、どうしますか**

C：がんばって食べる C：残しちゃう

**T：残したご飯やおかずは、どうなるのかな**

C：捨ててしまうんじゃないの

**T：栄養士の先生に聞きました。学校全体で1日にご飯180人分、おかずが60kg、1年ではご飯が2万人分、おかずが7200kg残ってしまうそうです**

C：えっ、もったいない C：作ってくれた人が悲しむ

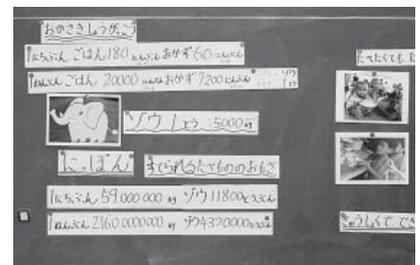
**T：給食を作っている様子を見てみよう（調理している様子の映像を見る）**

C：いっしょうけんめいに作っている C：たいへんそうだ

C：僕たちのために作ってくれているんだ

**T：栄養士の先生からお話を聞きましょう（栄養士の先生の話）**

\*給食は、みなさんが大きくなるために必要な栄養のことを考えて作っています。苦手なものがあるかも知れませんが、がんばって食べてみてください。きっと好きになると思いますよ。



T：日本全体で捨てられる食べ物について考えてみましょう。捨てられている食べ物の重さは、1日に……象さん11800頭分の重さと同じです。  
1年では…象さん4320000頭分の重さと同じです。

C：すごい C：もったいない

T：世界には、食べたくても食べるものがない人たちがたくさんいます。  
(写真を見せながら、飢餓についての説明をする)

C：これから、給食をどのように食べたらいいか、考えてみましょう。

これから きゅうしゆく をどのように たべて いきたいですか。

なまえ ( )  
さいしょはたべれなかつたけど  
これからはのこさずやさいを  
たべてひょうきをなくします

これから きゅうしゆく をどのように たべて いきたいですか。

なまえ ( )  
まいにちのひさすかもしはってきめは  
くたべます

## ◆◆◆ 授業についての話し合い ◆◆◆ (◎…授業者 ○…所員)

### 授業を振り返って：授業者から

「残した給食はどうなるのかな」という投げかけに対して、「捨てちゃうんじゃないかな」という声がありました。残した給食は捨てられてしまうということを、子どもたちが理解していることがわかりました。調理室の様子をビデオで見せたことで、作っている人の様子なども理解できたようです。「つくった人がかなしむ」という発言がありました。残った量を子どもたちに伝えるために象の重さに置き換えてみましたが、量の大きさが伝わったか疑問でした。

### 〈授業後の子どもたち〉

- ◎授業した日の残食は少なかったです。給食を残さずに食べようという意識は持ち続けているようです。残った給食がどのようになるか興味をもち、調理場のことを気にする子どももいます。
- 給食の調理場が近くにあったから、作っている人や残った給食のことについても意識をもつことができたのではないのでしょうか。
- 授業構想についての話し合いのとき、飢餓の状況を写した資料を1年生に見せることについて意見がありました。資料についての子どもの反応はどうでしたか。
- ◎ひどくやせた子どもの写真などは子どもが受け止めきれないだろうという判断で、食料の配給に並ぶ子どもの様子などの写真を資料として使いました。子どもの反応は「かわいそう」という声もありましたが、驚きのほうが強かったと思いました。給食は並んですぐに食べられるのに、長い列を並んだり一つの皿の食べ物を取り合って食べたりすることに驚いていました。
- 並んで食べ物を受け取るという給食の場面に近い資料を選んだことによって、子どもたちは自分たちの状況と比べることができたと思います。資料の選びかたに授業者の配慮を感じました。
- 食べ残しがどうなるかについて子どもたちが興味をもち、給食の調理場まで見に行ったことに感心しました。現在では食べ物のほとんどが工場で作られていて、「食」が見えなくなっています。コンビニ弁当がどのように作られるのかも見えない、残った弁当がどのように処分されるのかも見えない。そういう中で、自分たちの食べるものをきちんと見ようとするいい授業だったと思いました。

## 今、地球で起きていること ● 食べ物がたりない

1学期にユニセフ募金の活動にとりくみました。ユニセフ募金を通し、アフリカには十分な食料が得られずにいる人々がいることを知った子どもたちが、世界的な視点から食料問題について関心をもち「今、地球で起きていること」について考えました。

### 実践報告

#### 学 習 の 流 れ

##### ① ユニセフのポスターに載っているアフリカの子どもたちの写真を見て話し合う

- T：(写真を示し) この子どもたちは何をしているのだろうか？  
 C：アフリカの子どもだ。「助けて」と言っている  
 C：写真の中には笑っている顔もある「助けてくれてありがとう」と言っているのかもしれない  
 T：どうして「助けて」と言ってるの？  
 C：飲む水がないんじゃないか  
 C：水道もないと思うよ  
 C：食べ物がたりないのかもしれない…

##### ② 『ハンガーマップ』を見て食料が少ないところがあることに気付く

- T：(『ハンガーマップ』を提示して) この地図を見て気付いたことはありますか？  
 C：日本は濃い緑だ  
 C：アフリカは赤く塗られたところが多い  
 C：(アフリカ大陸を指して) ここは茶色に塗られているところが多い  
 C：茶色のところは水が少ないんじゃないの  
 T：(東南アジアの茶色に塗られたところを指して) でも、ここは雨が多い場所だけれど…？  
 C：じゃあ、食料が少ないところだ  
 C：そうだよ。茶色のところは食料が少ないところだ  
 T：では、世界中では食料は足りないのだろうか？  
 C：食料は足りていない  
 C：(全員が賛成の挙手)

##### ③ 食料は世界中の人が食べられるだけ生産されていることを知って

- T：実は、食料は足りています。(資料：『増えている食料生産』) 一人あたり1年間で320kg食べられるくらいの穀物が生産されています。今、日本人一人が1年間に食べている食料は160kgです  
 C：じゃあ、どうして食料不足が起きているの  
 C：何で分けてあげないの  
 C：教えてよ  
 C：どうして食料があるなら買わないの  
 T：コーヒーとカカオ豆の生産などは生産している人は貧しいので、自分でつくっているコーヒーやカカオからつくるチョコレートなど食べたことがない人もたくさんいます。穀物もすべてが人々の食料になるのではなく、牛やブタ肉をつくるためなどの餌として使われていま

す。また、お金を儲けるための穀物の取引によって穀物の値段が高くなってアフリカの人が買えないということもあります

C：そんなのおかしい

## ◆◆◆ 授業についての話し合い ◆◆◆ (◎…授業者 ○…所員)

### 授業を終えて：授業者から

子どもたちは、食べ物がなく困っているのはアフリカだけだと思っています。食料が不足する理由についてコーヒーやカカオ豆の生産に従事する子どもたちの例を出して説明しました。1時間の授業でしたので、「食料問題」の導入だけで終わってしまいました。子どもたちが「もっと知りたい」と思ってくれたらそれでいいかな、と思っています。子どもたちはアフリカについて、水（雨）がなく植物（穀物）を育てられない土地というイメージをもっていました。地球温暖化や、二酸化炭素の排出量の問題などについて学習すると、国際社会の矛盾というところにも目が向き、世界的な視点が生まれるのではないかと思います。

### 地球的問題群の一つ「食料問題」を小学4年生がどのように受けとめたかという視点から授業について話し合いました。

#### 〈十分ではないが、子どもたちなりに問題を受けとめることができた〉

- 5年生ですと、社会科で食料自給率のことを学習します。日本の食料自給率が低く輸入に頼っていること、世界的に見ると食料が不足している地域があるということを知ります。そして、私たちはどうしたらよいかを考えます。4年生としては、国際理解の視点から自分たちと違う子どもたちがいることに気付いたということではないのでしょうか。
- ◎授業後の子どもたちのノートには、「食料でお金儲けをしようとする人には罰金を与えた方がいい」「自分が偉くなったら食べ物のことを訴えたい」「カカオ豆を安く買っているのはやめた方がいいんじゃないか」など4年生らしいストレートな反応がありました。
- 「食料問題」の解決は授業だけでできることはありません。授業を通して子どもたちが食料問題や自分たちと違う世界で生きている子どもたちがいることに興味をもったり、関連した本を読んだりするきっかけになればいいと思います。
- ◎この授業をする前まで、子どもたちは自分の好きな本を読んでいました。授業をやったことによって「食料問題」が共通の話題になってきました。関連する本を図書室で読んで、「カカオ農園で働いている子どもは、チョコレートを食べたことがないんだよね」「世界では100人に一人しか幸せじゃないんだよ」といったことが話されるようになりました。授業をする前は、難しい課題が子どもたちに通じると心配していましたが、解決策は見通せないにしても現在起きている問題に興味をもって自分なりの感想をもつことができたと思います。

#### 〈子どもたちは「食料問題」と自分との関わりをどのように捉えようとしたのか〉

- ◎小学校の中学年の反応の特徴かもしれませんが、授業した日の給食はすごくきれいに食べていました。そのような気持ちになったということは4年生の感情として評価していいと思います。
- 環境問題についても、子どもたちはどこか人ごとのようなところがあって、「かわいそうだね」「たいへんだね」ということは言いますが、自分たちがどう関わるかということころまでは踏み込んで考えることは難しい。特に、食料問題で何ができるかということは非常に難しいと思います。5年生で食料自給率が低いことについて学習しました。自分との関わりについては「地産地消」という答えがすぐに返ってきました。確かに「地産地消」も解決策の一つだと思いますが…、政策としてとりくまれていることであって、自分との関わりという点では、少し不満が残ります。「食料自給率が低いことをポスターにして知らせる」といった自分レベルでのとりくみを大事にしたいと思います。

○以前の小学校4年生の社会科ではこのような地球規模の問題などを扱うことはなかったように思います。子どもにとって自分との関わりからスタートさせたいと思います。食料問題というのは難しい課題ですが、単純に一つの答えが出せない難しい問題を抱えた地球に子どもたちも生きているわけですから。

## 共同研究者からひと言

「食料問題」は、調べれば調べるほど、考えれば考えるほど、どうしていいのかわからなくなってしまう問題です。子どもたちは、直感的に「飢えている人がいてかわいそうだ」と考えます。そこで「自分レベルに…」ということになるのだと思います。解決が難しいからといって問題がなくなるわけではありません。子どもたちが子どもたちなりに「解決」の方法を考えることを大切にす  
る知的支援が必要だと思います。わたしは、世界の貧困問題や食料問題を専門的に研究していますが、その原点として思い当たるのは小学生の中学年の頃に、アフリカの飢えてお腹が膨らんだ子どもの話を聞いたことです。その話を聞いたとき、自分にご飯を食べることがすごく悪いことのように思いました。自分の研究者としての原点だと思うことがあります。この時期(小学生の頃)の経験というのは、その後も残っていくものなのだろうと思います。



## 学校に行きたくても行けない子ども

道徳の副読本『こころゆたかに』に載っている「世界に目を向けてみよう」を資料として、国際理解について考える道徳の学習を考えました。6年生になると学校で勉強するということが当たり前のことになってしまい、勉強することの意味を感じられなくなっている子どももいます。そのような子どもたちに、自分の置かれている状況を見つめ直し、これからの生き方を考えるきっかけとしてほしいと思いました。

### ◆◆◆ 授業の構想 ◆◆◆

#### 〈導入〉

資料として子どもたちに訴えかけるものが必要だと考え、資料（副読本『こころゆたかに』「世界に目を向けてみよう」）の中の「世界には学校に行きたくてもいけない子どもたちが1億1千万人以上いる」「世界には8億4千万人（約8人に1人）の読み書きができない人がいる」を最初に投げかけることとしました。

#### 〈展開〉

- \*もし、学校に行くことができず、字が読めなかったり、計算ができなかったり、生きていくために必要なことを教えてもらうことができなかつたらどうなるか想像する
- \*学校に行けない子どもたちの現状を知る
  - ⇒資料：「小学校に入学した子どもが卒業できる割合、モンテネグロ・スーダン・ルワンダの子ども」（ハンガーマップ）から、学校に行けない理由について考える
    - ・戦争、児童労働、飢え、貧困など様々な要因が複雑に絡み合っている
- \*学校に行けない子どもたちがいる現状を知って、どう思ったか話し合う
  - ・今までの自分やこれからの生き方について考えるきっかけとする
  - ・世界とつながりをもって生きる。自分は何ができるのかについても考える

#### 〈振り返り〉

1時間の学習を終えた感想を自由に出し合う

### ◆◆◆ 授業の構想について ◆◆◆

(◎…授業者 ○…所員)

#### 〈ものごとを多面的に見る子どもを育てる視点から考える〉

- 中学生でもいろいろな情報が周りがあるのに、意外と知らないということがあります。アジアの国について学習したとき、まだ資料を読み終えていないのに、「かわいそう～」「わたしの給食あげる」「募金しようか～」といった反応があり、そこで止まってしまうことがありました。これからどうしていくかということは難しい話ですが、「募金をすればいい」というところから一歩踏み込んだ授業をしたいと思っています。子どもたちは、周りにたくさんの情報があっても「知らない」ことが多いので、きちんと伝えることが大事だと思います。
- 自分たちの境遇と比べて「かわいそうだ」という感想をもつことが多いと思いますが、その背景に目を向けさせることによって、「感想」から「理解」に深まっていくように思います。他の教科と関連させながら、アフリカの貧困や食料・飢餓などの情報を与えることによって理解が深くなると思います。

- 就学できない子どもがいるということを、今の（日本の）子どもたちは実感できないと思います。だから、「学校に行けなかったらどうなるか？」という問いかけはすごく大事だと思います。子どもたちは字が読めなくても書けなくても、喋ることができればコミュニケーションは不自由しないと思っているのではないのでしょうか。契約などで文字で書かれていないものはいわゆる「口約束」です。社会とのつながりや人とのつながりの肝心なところには文字が介在しています。子どもたちが、読み書きができないと社会とのつながりが非常に不利になることを、理解することが、勉強することの意味につながると思います。
- ◎ともに学ぶことの大切さに気付いてほしいし、当たり前のように学校で勉強ができることのありがたさにも気付いてほしいと思っています。
- 6年生を担任したとき、生き方について考えるということを強く意識しました。学校に行けない子がいるのは「かわいそう」で終わってしまうと…。自分との関わりで問題を捉えさせるために、勉強についての気持ちやなぜ勉強するのかということについての調査を事前に行い、それと比較しながら「学校に行けない子ども」のことを考えるということも方法の一つだと思う。
- 「学校に行けない子どもたちは本当に不幸せなのか」ということについて考えることで、簡単に「かわいそう」で止まっているところから一歩踏み込むことになるとと思います。学校に行けない子どもたちも笑顔をもっていると思います。そんな写真を手がかりにして、「学校に行けない子ども」の暮らしの様子について考えることもできると思います。「かわいそう」で止まってしまうと「自分たちは学校に行けてよかった」で終わってしまいます。「学校に行けない子どもたち」の背景や、暮らしの様子を考えることで、自分の生き方を振り返ることができるようになると思います。

## ◆◆◆ 実践報告 ◆◆◆

### 学 習 の 流 れ

#### ①本音を出し合うことから学習をスタートさせる

T：勉強が好きですか？

C：好き。勉強した分力がつくから

C：普通。わかったときは楽しいけれど、難しいときはつまらない

C：嫌い。めんどくさいから C：おもしろくない C：勉強するのはたいへんだから

#### ②何の数字が予想する

T：「8億4千万人 8人に1人」これは何を表している数字だと思いますか？

C：日本の小学生の数…

C：世界で学校に行っていない子どもの数？

C：勉強をしたことがない人の数。だから、読み書きができない人の数



#### ③文字の読み書きができないことで困ること

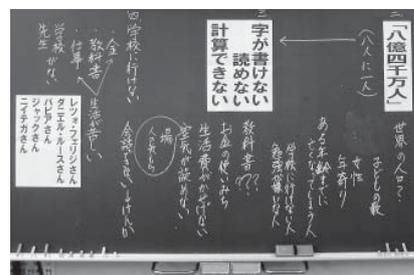
T：文字の読み書きができなかったり、計算ができなかったりして困ることは？

C：看板や説明が読めない

C：簡単な計算ができない。買い物ができない

C：将来の夢がもてない。仕事がない

C：社会の問題の解決の仕方がわからない



#### ④なぜ、読み書きのできない人がいるのか

T：どうしてこんなに多くの人が読み書きができないのだろうか？

C：学校がないから

C：読み書きを教えてくれる先生がいないから

C：学校があっても行けない子どもがいるんじゃないかな

C：勉強に必要なものが買えないから

#### ⑤読み書きのできない子どもの声を聞く

T：『心ゆたかに』51 ページに載っているモンテネグロ・スーダン・ルワンダの子どもたちの声を聞いてみましょう（教師が資料を読む）

C：勉強したいのに学校に行けなくてかわいそう

C：当たり前のように学校で勉強することができるのは幸せ

C：勉強は嫌いだと思っているけれど、学校に行けない子どもがいることがわかってそれじゃダメだと思った

C：どうしたら、この子どもたちが学校に行けるようになるのか

C：私たちにできることは何かある

T：学校に行けない子どもがたくさんいることを知って、どのように思いましたか。ワークシートに自分の気持ちを書いてください

### ◆◆◆ 授業についての話し合い ◆◆◆ (◎…授業者 ○…所員)

#### 授業者から

本音を出させることによって自分の生き方について考える機会とすることを考えました。できるだけ本音を出すことが、最後のまとめをするときに自分との関わりで考えることになると思います。子どもたちは、文字の読み書きができない人の数の多さに驚いていました。自分たちと違う立場にいる子どものことに気づいたことが大きな収穫でした。課題としては、もう少し自分たちの生き方と関係づけて考えることや、考えの深まりを引き出せたらよかったと思っています。

#### 〈自分の置かれている環境を、違った立場から眺めてみると大事なものが見えてくる〉

○正直な感想が書かれていると思いました。「学校に行っていないのに毎日がたいへんで…」と書いた子どもは毎日がたいへんだと思っているんでしょう。だけど「学校に行ける私は幸せだ」と書いています。6年生としてちゃんと考えている様子が伝わってきます。自分もこの資料を使って授業をしてみようと思いました。

○今、不登校の子どもがクラスにいます。学校に来て勉強することの大切さということを、教師も親もどう伝えたらいいのか考えてしまいます。「学校に行かなくてもいい」というような考えもありますし…。今日紹介されたような実践を一つ一つ積み上げていくことも大事なことだと思いながら聞いていました。道徳の時間で学んだことを評価する必要はないとしても、積み重ねていくことは大事だと思います。自分たちに与えられている環境を違った立場から眺めてみると、何が大事なことなのかということが見えてくるように思います。

○学校での学びのあり方がいろいろ言われていますが、子どもの感想には、学校で学ぶことが幸せなんだということが端的に書かれているように思います。AかBかを決めたり、正解に導くようなことをあえてしなくても、子どもたちは一つの「答え」を超えて考えをすすめているように思います。

## 〈子どもたちの感想〉

★2 学校に行きたくても行けない子どもが、こんなにたくさんいることを知って、あなたは、どう思いましたか。

とてもかわいそうだな。とおもいました。差別や、お金がなくて

学校にいけないうんて…。ましては、学校にもいけず路上で生活するなんて、自分でもいそなだたらたえらなない。食べるものはどうしているんだらう？

学校にいけないうんたら

学校に行けず勉強できないと、こんなにも悲しい生活を送らなければならぬとは思わなかったのです。とても悲しかったです。自分は、学校に通えるだけでラッキーだなと思いました。

ぼくたちが学校に通っているのが「ふつう」ではなかつたんだ。こんな人もいるんだ。と現れて、学校に行けないうんたと思つた。

### 共同研究者からひと言

平和教育を相手の立場に立つてものごとを考えてみようということを軸にして実践してきました。「学校に行きたくても行けない子ども」の実践もそうですが、今回のいろいろな実践は、さらにすすんで「自分というものをどう捉えようとしているのか」というところまで踏み込んでいるように思います。授業の終わりに書かれた子どもたちの感想を、地球的問題群と自分との関わりを考えるものとして大事にしたいと思います。



## 本当に中国って「最悪」？ ● 国と国がなかよくする

### 日本と中国の関係について考える…その1

中国や韓国と領土問題に端を発する様々な事件が起きました。国語で『和語・漢語』の学習をした際、「私の名前は和語（漢字の訓読み）でよかった」「エーッ、漢語（漢字の音読み）。最悪だ」という声がありました。台風が日本に接近してきたころ、「台風、そのまま韓国の方に行っちゃえばいいのにね」などと話す子どももいました。テレビで見たことや聞いたことを、深く考えることなく受けとめ「中国嫌だ」「韓国も嫌だ」「最悪」と言う子どもたちに、近隣国との友好について考えさせたいと思いました。

### ◆◆◆ 授業の構想 ◆◆◆

#### ① 授業の構想

「領土問題が、なぜ、今、起きているのか」を教師が説明しても、領土問題に関する知識もほとんどない子どもたちには、教師の考えの「押しつけ」になってしまうと考えました。今まで社会科で学習してきたことをもとに、国どうしの友好について考えさせることが重要だと思います。『これからの食料生産』という単元で、日本の食料自給率の低さと食料の輸入について学習します。また、自動車の生産や輸出についても、海外の工場や外国人の労働力によって生産していることを学習します。

「世界の国々とうまく付き合っていくにはどうしたらよいか」を学習するなかで、日中関係についても考えられるのではないかと思います。最初は「中国は嫌だ」「中国に物を売らない方がいい」などといった意見が出てくると思いますが、中国が経済面で最大のパートナーということを実際として受けとめながら、平和的な交流の方法について考えていくような授業にしたいと考えています。また、文化の交流についても目を向けさせたいと思います。

#### ② 授業の流れ

これまでの学習の振り返り

##### 〈これからの食料生産〉

- \*なぜ日本の食料自給率は低下したのか
  - ・食生活の変化
  - ・安い外国製品の輸入
  - ・農地や農家の減少
- \*もし、輸入がストップしたら…
  - ・戦争や干ばつ
  - ・農薬の害
- \*これからどうしていったら…
  - ・国の支援
  - ・地産地消
  - ・食生活の見直し

##### 〈世界とつながる自動車〉

- \*外国の工場部品や製品を作るのは？
  - ・安い賃金
  - ・現地の産業も発展する
- 資料：主な輸入品と輸出品  
主な資源の輸入の割合
- \*世界の国々とどんな貿易をしているか
  - ・資源を輸入して、電気製品や自動車などの製品を輸出
- 資料：主な貿易の相手国

中国の行動について日本はどのように対応すべきだろう

資料：「中国における日系企業襲撃」「反日デモ」のVTR

- \*領土問題が発端になっていることは押さえるが、各国の主張の違いや歴史的背景についてはあまり深く追求しない。
- \*中国で行われた卓球のW杯への不参加、音楽コンサートの中止について知らせる。

**〈「中国、やだー」から日中関係を考える授業をスタートさせる〉**

- 「中国、やだー」「最悪」という子どもたちの反応は非常にリアルだと思う。あえてそこから授業を始めようとすることに興味があります。「台風、朝鮮半島の方に行っちゃえ」「名前が中国読み(字音)で最悪～」と言った子どもたちの気持ちに蓋をして、授業のねらいを「仲良くしようね」としても、真剣な学習はできないと思います。どのような授業が展開されるか楽しみです。
- メディアで中国のことが大々的に伝えられているとき、日中関係を取り上げることは難しさもあるが、非常にタイムリーだと思います。授業のまとめとして、平和的な解決に向けて、どのような資料をどのタイミングで提示するかということが難しいと思います。
- ◎資料の一つとして「日本の主な貿易相手先」を考えています。工業の学習のところで扱います。子どもたちの「中国、許せない」といった感情を、冷静に見直すきっかけとなるような資料を探してみます。現在「これからの食料生産」についての学習をしています。「食料の輸入がストップしたら困る」「外国に感謝しなくては」といった感想を述べている子どもがいます。「外国と仲良くしなくてはいけない」と書いている子もいますが、外国というのが中国を指しているわけではありません。子どもたちは、食料はアメリカやオーストラリアから輸入していると思っています。食料の輸入を中国に頼っているという感覚は、今の時点ではないようです。
- 今年の夏、中国に行くことがあり、お土産にキティちゃんのグッズを持っていこうと思いました。キティちゃんはたくさんあったのですが、いずれも「メイド・イン・チャイナ」でした。日本製のキティちゃんを捜すのに大変苦労しました。子どもたちが普段使っている文房具やちょっとしたキャラクターグッズなどを調べることによって、いかに多くの外国製品が入っているかがわかると思います。

**〈身の回りの中国・アジアで生産された輸入品から、日本との関係を考える〉**

- 身の回りの物がどこで作られたかを調べることで、外国との結びつきについてわかるのではないか。以前の中学校の社会科では、中国との貿易については農業生産物についての扱いがほとんどでしたが、新しい教科書では工業製品や経済発展のことが大きく取り上げられています。
- 子どもたちは気付いていないかもしれないが、「メイド・イン・アジア」は身の回りに多くあります。5年生の子どもたちが調べることも可能だと思います。
- 衣料品のタグを見てもアジアの国々で作られたものが多いことがわかります。そこから、「どうして中国やアジアの製品が多いのか」ということを考えたり、これらの製品がなかったら自分たちの生活はどうなるのかを考えたりすることにつなげることができると思います。

**〈領土問題と「反日デモ」をどう扱うのか〉**

- 中国の「反日デモ」というのはどちらかといえば感情的なものです。感情的なものを取り上げたときに話し合いをどのように収拾するのか、「日本はどのように対処すべきか」といった社会科としてのねらいにどのようにつなげていくのか、ちょっとイメージできないところがあります。どのような資料を用意しておけばいいのか…。
- 子どもたちはメディアから「反日デモ」の情報を得ています。「反日デモ」のことを議論するのではなく、両者がそれぞれの感情をもっているところから授業を出発させるということでもいいと思います。
- 子どもたちは(中国の)日本企業や日本車が壊されるのを見ていますから、「中国は悪い」という感情をもっていると思います。しかし、日本企業も中国から物を買ったり、自動車や物を売ったりして利益を得ています。そのギャップを考えることは大事なことだと思います。
- ◎まだ構想の段階ですが「中国の行動について日本はどのように対応すべきだろう」という発問ではデモに対する議論になってしまうので、そこは避けたいと思います。5年生の社会科で領土問題を考えることを、学習指導要領では求めていませんが、領土問題に端を発する「反日デモ」のVTRから授業を構成したのは、子どもたちの現状を見たときに、このままではいけないと感じたからです。子どもたちには、感情論ではなく資料やこれまで学習したことをもとに考えてほしいと考えています。食料、工業生産と学習してきたことをもとに問題を考えさせたいと思います。

## 〈冷静に日本と中国の関係を考えさせたい〉

◎テレビの報道などを見て「中国って嫌だ」と思っている子どもたちが、少しでも別の視点から中国のことが考えられればいいと思っています。領土問題や中国について何かを教え込むことなく、一つの事象を多面的に見つめる機会としたいと思います。テレビの映像で、反日デモや日本車や日本企業の建物を壊す中国人を見て、「何となく嫌な国だ」と感じていた子どもたちが、ちょっと別の面から中国を見る機会になればいいと思っています。

### 共同研究者からひと言

非常によく考えられた授業構想だと思います。ここでできるかどうかは別にして、地球的問題群という視点から平和教育を考えるときには、「相手の立場になって考えてみる」ということが一つのポイントです。さらに、中国で日本向けの物を作っている人たちはどのように考えているのか、日本で中国製品を使っている私たちはどう思っているのかなど、人と人のつながりまで想像力が及ぶといいと思います。



反日行動の起きていない中国の都市では「日本はすごい国だ」という認識が一般的です。東日本大震災のときでも略奪や暴行が起こらなかった非常にモラルの高い国だと見ています。「技術力が非常に高く、正直な国だ。中国はとてもそこには追いついていない」と言っている中国の経済人はたくさんいます。それがあつ種の驚異となつていることもあります。中国にも冷静に日本との関係を見ている人がたくさんいます。

## 実践報告

学習の流れとしては前回の提案した授業構想と大きく変わるところはありません。日中関係については「反日デモ」について議論することではなく、今まで学習してきたことをもとに、工業や農業など様々な産業分野でお互いに必要とされていることがわかることをねらいとしました。

### 子どもたちの考えや感情の動き（授業時数3時間）

#### ①自動車の海外生産は年々増えている理由について資料をもとに考える

**T：なぜ、自動車の海外生産は年々増えていくのか、資料をもとに考えよう**

資料：日本の自動車生産台数と輸出台数⇒85年以降海外生産が増えている

- C：外国の方が人口が多い ・現地の人働く場所をつくる
- C：海外の安い材料を買う ・輸送費がかからない
- C：国によるニーズの違いにちえる ・日本車の性能がいい

#### ②身の回りの工業製品の産地について調べる

**T：身の回りの工業製品はどこで作られているのだろう**

\*家庭にある工業製品について調べてくる⇒調べてきたことを白地図にまとめる

- C：大国のアメリカ製品が少ない
- C：ロシアも大きいのに一つもないのは北方領土でもめているから？
- C：東アジアや東南アジアの国の製品が多い
- C：中国製品がとつても多い。尖閣諸島でもめているのになぜ？
- C：アメリカは仲がいいのに少ない

C：衣料品で中国製が多いのはどうして？⇒人口が多いから工場で働く人も多い

T：身の回りに中国製品が多いのはなぜだろう

C：日本に近いから、輸送面で有利

### ③中国と日本の関係について知る

T：身の回りに中国製品が多いことから、日本と中国との関係について考えよう

T：テレビで放送されたニュースを見てどう感じますか

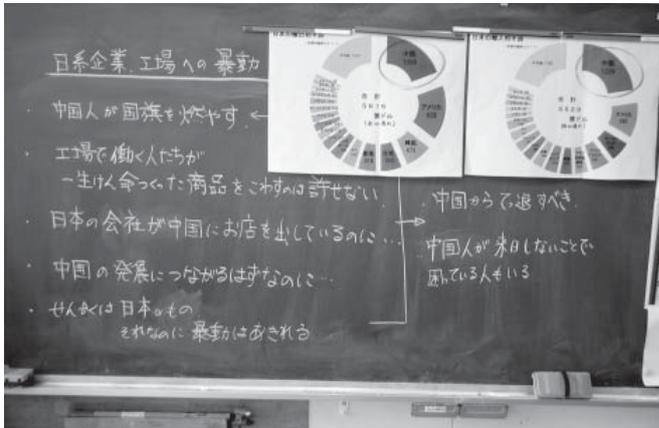
資料：中国の日系企業への破壊行為のVTR

C：何でこんなことするの！ ・頭にくる

C：許せない！ ・中国ってひどい国だ！

C：国旗を燃やすなんて…

C：せっかく日本の企業が中国に店を出してあげているのに



T：(資料：日本の貿易相手国を示す) この表は日本の貿易相手国を示したものです

C：なんで～、中国が一番なの ・どうして中国と貿易するの ・私は買わない…

C：中国から何を買っているの(輸入)？ ・中国に何を売っているの(輸出)？

T：(資料：対中国輸出品・輸入品(\*)を示す) 日本と中国の貿易(輸出・輸入)の様子を表したものです。この表を見てどのようなことを考えますか。

\*「世界の資源」「世界の農林・畜産・漁業・工業製品の生産高」(朝日ジュニア年鑑)

C：中国はどの統計にもランクインしている。日本と中国では資源の差がすごく大きい

C：貿易しないと日本も困る？

### ④これからの日本と中国との関係について考える

T：日本は中国と、どのような関係を続けていったらよいのだろう

C：中国にある日本の工場を別のアジアの国に移せばいい

C：一度、中国との貿易をストップして、(中国にとって)日本が大切な国だと分からせる

C：賛成。一回貿易をストップした方がいい

C：でも、一回とめちゃうと日本の生活も大変になっちゃうんじゃないの

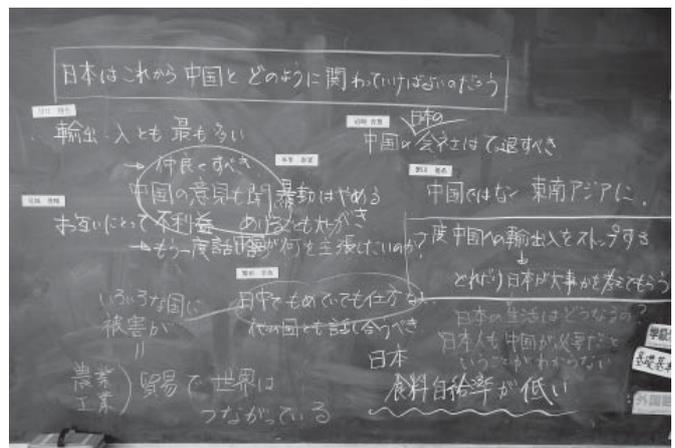
C：(日本は)食料自給率が低いから…、日本も困るんじゃないの

C：なぜあんなこと(デモや破壊)をするのか中国の意見も聞いてみたら…

C：中国のやっていることは嫌だが、このままけんかしてるのもお互いが不利益になる

C：もっと話し合った方がいい。話し合わないと、中国のことがよくわからない

C：仲良くした方がいい



## 〈多面的なものの見方が育っている〉

○VTRを見たあと「中国はけしからん」という考えが学級全体を支配します。その後「でもさ…、輸出入が止まったら日本も困る…」という発言によって別の方に揺れていく。クラス全体がこっちから見たり、別の方から見たりしている。そういった揺れが大事だと思います。

◎今回、暴動のシーンをVTRで見たことにより、普段は人ごとのようにニュースなどを見ている子が、自分の感情をもって問題と向き合えたことがよかったです。100%中国は許せない、と言っていた子どもたちが、次の時間に「中国の意見も聞いたら…」という発言をきっかけに「許せない」という感情が変わっていきました。授業をしていて、子どもたちの変化に驚きました。

○中国とのあつれきを学習したあと「これから中国とどのように関わっていけばいいのだろうか」という課題に移っていくのはおもしろい流れだと思いました。多面的なものの見方が、子どもどうしの話し合いの中で育っていることが分かります。

◎中国の中にもいろいろな意見の人がいることについて、「中国の人はみんな、こんなにひどいことをしようとしているの?」と質問した子がいました。それを聞いていた子どもが「そんなことないんじゃないの」「日本でも、中国のことをみんながみんな悪く思っていないし…。中国にも日本のことが好きな人がいると思う」と答えていました。

○学級全体の考えが一つの方向にまとまったらそこで終わりになることが多いのに、一人の発言から、また考え直しや捉え直しの議論が始まるということに驚きました。



委員会での話し合い

## 〈このあと計画している「討論会：国どうしが仲良くするには」について〉

○この後、討論会が計画されていますが、小学校5年生としたらこれで十分という気もします。この後、子どもたちは「仲良くする」ということをどう考えていくのか、興味もあります。

◎子どもたちは、「仲良くしなくてはならない」という結論に行き着いていました。子どもたちのノートには、「仲良くした方がいい」「仲良くしなくては」といった言葉が書かれていましたが、あまりにも安易な結論のように感じます。「仲良くした方がいいのに仲良くできていない」ことについて、もう少し掘り下げて考えてほしいと思います。どういうことを手がかりにしたら仲良くなれるのか、子どもたちなりに考えさせたいと思います。どのような資料をもとに討論の場を作ったらいいのか考えています。

仲良くする、争いを回避するには、100%自分の主張を通すということでは不可能です。どこかで折り合う、相手の主張との妥協点を見つけるということが必要になります。

○子どもたちが友だちと仲良くする、心を許し合って信頼関係を結ぶ、というのと国と国とが仲良くするというのはイメージが違うと思います。その違いをことさら子どもたちに言う必要はないと思いますが。

## 共同研究者からひと言

平和的問題解決能力を養うというのが、この「国際連帯と平和研究委員会」で考えてきた平和教育・平和学習の目的ですが、今回の議論は少し違うステージに突入したような印象を持っています。例えば、アフリカの貧困問題を取り上げると「ずいぶん自分たちとは遠いところでい

ろいろな争いごとがあつて貧困になっています」ということから始まって、「争いを止めたらいいのに」「みんな仲良くしたらいいのに」と議論がすすみ、その貧困は自分たちが生活している社会にもつながっていることも考えなくてはいけない、と平和について考えてきました。今回は直接自分たちが対立の当事者になっています。平和的な問題解決能力そのものが問われている教材だと思います。すごく難しい課題にチャレンジされたと思います。

最終的には「仲良くする」ということですが、日本車には火を付けられ、日本のデパートは目茶苦茶にされ、日本の誇りのようなものが傷つけられたように感じた人もいたと思います。その誇りを守るために威勢のいいことを言う政治家たちも現れています。その誇りのようなものと、仲良くするということはどのような関係にあるのか。仲良くするということは、誇りを捨てるということなのか、それとも違う道があるのか…、どうなのでしょう。

「人の財産に火を付けたり壊したりするな」ということは堂々と言うべきだと思います。それは、あくまでもお互いに用意した土俵の中でやることだからです。それが平和的な問題解決だと思います。その土俵からはみ出すと、仕返しに日本のコンビニで働いている中国人に暴力をふるってしまえということになります。自分たちが当事者になったときの平和的な問題解決能力ということが問われるすごく内容のある実践だと思いました。



## 日本と中国の関係について考える…その2

### 討論会を開く テーマ ● 中国とどのような関係をつくれればいいの？

子どもたちは「仲良くすればいい」と言いつつも、具体的にどうしたらいいかという声が少なかったことを受けて討論会を計画しました。話し合う視点として次のことを考えました。

- ①なぜ、日本と中国が仲良くしなければならないのか
- ②仲良くするとはどういうことなのか
- ③（仲良くするために）今何をしなくてはならないのか

資料として（2012年）9月23・24・25日、10月6日の『朝日小学生新聞』から日中関係についての記事を用意しました。資料を事前に渡し、自分の考えをもって討論会に臨むようにしました。討論会は、はじめに学級を2つに分けた6人ずつのグループで話し合いを行い、その後グループでの話し合いの報告をしたあと、学級全体で話し合いを行い“自分たちの結論”を出すようにします。このやり方は、これまでもいろいろな学習場面で経験している方法です。

## 実践報告

### 討論会を開こう

テーマ：「仲良くするって…？ 日本は中国とどのような関係をつくれればいいのだろう」

グループでの話し合いの様子

司：なぜ日本と中国が仲良くしなければならないのか？

A：中国からたくさんの衣服を輸入している。衣服の他にも輸入額は多い。もし、輸入がストップしたら困ってしまうことがたくさんあるんじゃないか

B：新聞に「日本への中国観光客が減り観光業が大打撃」と書いてあった。旅館などで働いている人がたくさんいて、その人たちの生活が困ってしまう。だから、中国と日本は仲良くした方がいい

C：中国は資源をたくさんもっている。だから、中国と仲良くしなければならない

D：1987年に日中平和友好条約を結んでいるのだから、もっと仲良くしなくてはならない。そのためには、まず文化交流をした方がいい。(子ども新聞の)高原先生も、政府どうしがもっと話し合えば解決できるかもしれないと言っている

E：日本の輸入・輸出相手国が両方とも中国が1番だから、仲良くしなければならない

D：輸出入の相手国が中国が1番。やっぱり中国と仲良くしないと、自分たち(日本)も困るんじゃないの

B：経済面や文化面でも中国は日本にとってすごく大事な国。旅館の客が減るなどの影響が出るから仲良くしなければならない

C：このまま悪い状態が長引けば、日本も困るし中国も困るから、こういうのは止めた方がいい

**司：中国と仲良くするって、どういうことなのか？**

A：日本も中国も笑顔になって、日本人も中国人も理解し合えるってこと

B：日本と中国がお互いに旅行したり、貿易しあったりする

C：まずは、暴動を止めること

D：日本と中国が尊敬し合うということが必要。お互いがいい国だということ認め合うことが必要だと思う

**司：そのために、今何をすればいいのだろうか？**

A：謝るべき偉い人が謝れば両方とも納得すると思う。もう一度日中平和条約のような約束を作る。中国は暴動を謝って日本は戦争を謝ればいい。高原先生(朝日小学生新聞の執筆者)の話の中に、接して話すのが一番と書いてある。もう一度しっかりと話し合って仲良くすべきだ

B：10月6日の新聞に、解決には政府どうしの対話が欠かせないと書いてあった。だから、中国の首相と日本の首相がよく話し合ったらいい。尖閣諸島を国有化するのではなく、島を分けたいと思う。あとは、輸出や輸入を増やしていけばいい

C：日本のテレビゲームやアニメは中国でも人気があると書いてあった。中国の子どもは日本のアニメが好きだから日本のアニメをたくさん知ってもらって、実際に楽しんでもらえばいい。少しずつこつこつ仲良くしていくしかないと思う

D：文化交流を少しずつ広げていく。アニメなどの文化交流で仲良くすればいい。それと、政府どうしがもっと話し合えばいい

E：日本の国にはまだ、中国が日本に必要な国だと思っている人が少ない。だから、偉い人たちがもっとそれを日本人たちに説明する必要がある。日本ではまだ暴動が起きていないのだから

D：やっぱり話し合うのが一番の解決方法だと思う

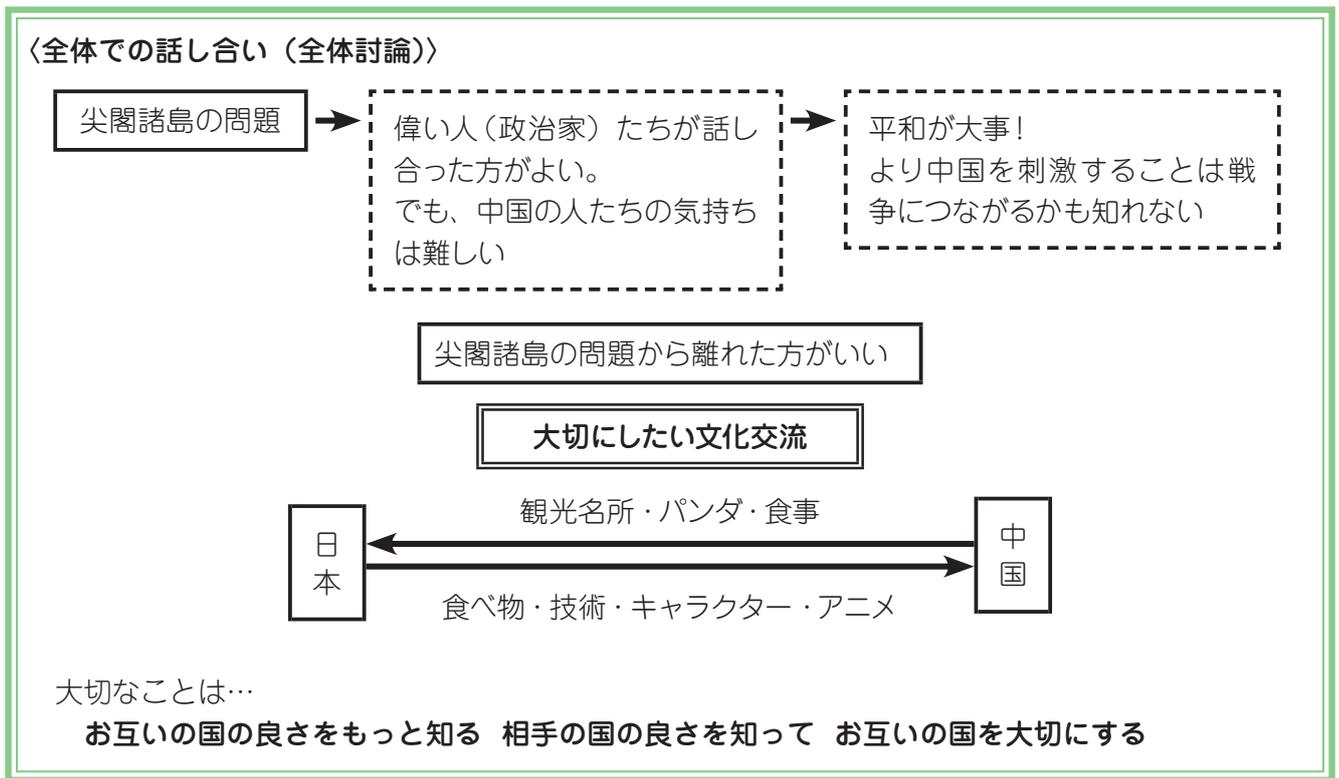
A：みんなが言っていたことだけど、日本の偉い人が謝れば、中国も分かってくれると思う

C：中国の若い人たちの中には、日本は乱暴というイメージが定着していると書かれている。まずは、そういう誤解を解いていけばいいと思う

B：色々話し合っても中国と一気に分かり合えることは無理だと思う。まず、中国とこつこつと話し合っって少しずつ分かり合っっていけばいい



子どもたちは資料として提示した『朝日小学生新聞』の高原先生の意見や談話を参考にしながら意見をまとめていました。これまで、貿易のところで学習した輸入・輸出の問題も子どもたちの意見の根拠としてよく使われていたと思います。最終的に全体討論で、クラスとして次の図のようなまとめができました。



### ◆◆◆ 授業についての話し合い ◆◆◆ (◎…授業者 ○…所員)

#### 授業を振り返って：授業者から

尖閣諸島の問題については、子どもたちの多くは「偉い人(政治家)が話し合えばいい」という意見でした。「中国の人たちとの話し合いがうまくいくのか」という疑問が出され、それに対して「無理なんじゃないか」「中国を刺激しすぎると戦争になっちゃうかもしれない」という意見も出されました。尖閣諸島の問題については、子どもたちも意味がよく分からないということもあり、議論は「島の問題は中国も日本も離れた方がいいのではないか」ということになりました。

それぞれの国のもっている文化の交流を盛んにすることが大切だ、ということについて議論がすすみました。大切なことは、文句を言い合うのではなくお互いの国の良さをもっと知るべきだ、相手の国の良さを知って相手の国を大切にする、ということが全体討論の結論となりました。

A子は、「台風、中国に行っちゃえばいい」と発言した子です。社会科にほとんど興味を示さなかった子です。討論会の終了後の「毎日の振り返り日記」に「中国は日本になくてもならない国だから、中国を嫌だと思わないようにしたい」ということが書かれていました。A子の保護者から「テレビのニュースを見るようになったし、夕食のときなどに、ニュースで見たことやそれに関係する学校での勉強のことをよく話してくれるようになった」と聞きました。A子の中に変化が起きていることを感じることができました。

#### 〈子どもたちの冷静な判断とバランス感覚〉

○日本車に火を付けたり、スーパーマーケットを壊したりすることに怒っていた子どもたちが、「島(尖閣諸島)の問題にはあまりさわらない方がいいよ」という発言したことに驚きました。「じゃあ、どうしたらいいの」という問いに対し「お互いの国のいいところを交流する」と言っています。子どもたちの国際感覚は優れています。

○中国の反日行動のVTRを見せたら、子どもたちは感情的な反発をするのではないかと考えていたが、スーパーマーケットが壊されたことに対して、「日本が仕返しをしちゃいけないよね」と考えている

ことも、すごいことだと思いました。VTRを見た直後にはそういう反応もあったようですが、それに流されることなく冷静な判断ができていると思いました。

- いろいろな面から議論して、尖閣諸島の問題から「離れる」という考えに行き着いたことがすばらしいと思いました。小学生でもきちんとした手順を踏んでやれば、冷静な判断ができることがわかりました。
- A子に代表されるように、日中の問題を通して世界に目を向けることができたこともすごいことだと思います。授業に参加した子どもたちは、決して悪い印象ではなく中国に対して興味をもつことができたと思います。最近、中国の大気汚染が話題になっていますが、この子どもたちに問いかけたらどのように答えるのか、興味が湧いてきました。

## 共同研究者からひと言

### 世界の動向と同時進行の授業に参加する子ども

実践報告も非常に興味深いものでしたが、世界の動向と同時進行の学習に参加している子どもたちは、もっとおもしろかったと思います。感情的に反発していた子どもたちが、これまでの学習で得た知識をつかい、冷静な判断をする姿に感心しました。尖閣諸島の問題にしても、分からないところは措いて、自分たちができることを探していくといった方向で議論をすすめ、「お互いのいいところを知るべきだ」と考えを変えていったところがすばらしいと思います。観光や貿易、日本の利益など様々な角度から問題が検討されているのも、「多面的なものの見方を育てたい」という研究所の考えにつながるものだと思いました。



### 研究所の平和教育のスタンス ● 平和的に問題を解決する力を育てる

今回の授業実践は、単純な反戦教育でなく、子どもたちに「平和的な問題解決能力を養う」「どこでも、誰でも、いつでもできる平和教育」という研究所の平和教育のスタンスが大切にされていました。素材としての、地球的問題群の前提は、「残念ながら人間社会というのは、紛争や対立がそれほど簡単にはなくなる」ということです。地球的問題群の解決方法として戦争などの暴力的手段に求めない子どもを育てること、それを平和教育の目標としています。

子どもたちの言う「島の問題から離れた方がいい」という意見に賛成ですが、日本と中国の間では尖閣問題での対立はおそらくなくなると思います。平和的に問題解決するためには何が必要なのかというと、答えの一つが「お互い尊敬し合う」ということだと思います。「お互い尊敬しているけれど対立している」ここがすごく大切なところだと思います。尊敬がなくなり「ばかやろー」「お前らは…」ということになると、戦争に突きすすんでしまいます。ぎりぎりのところで「お互い尊敬し合う」という心がないと平和的な解決や平和な状態を維持することができません。ルールを決めて対立を続けるということも、平和的な問題解決の方法として一つの選択肢だと考えます。

## 途上国の飢餓について考える

「先進国の食卓にのぼる肉を得るのに、その数倍の穀物が飼料として使われています。飼料となる穀物は途上国からも買い上げられ、途上国の人の飢えにつながっている」という話が心に強く残っています。日頃、何気なく食べている肉と途上国の飢餓の問題について子どもたちと一緒に考えてみたいと思います。

### ◆◆◆ 授業の構想 ◆◆◆

#### 授業の構想

食物と飢餓について考える資料として、授業で使っている『社会科資料集』に「飢える開発途上国」という資料があります。学習課題として、「このままの状態が続くとどうなるか」「肉食をやめたらどうなるか」ということを子どもたちに投げかけることを考えています。

問題をより自分との関わりで捉えさせるため、考える視点として、

A：途上国の立場で考える

B：日本の立場で考える

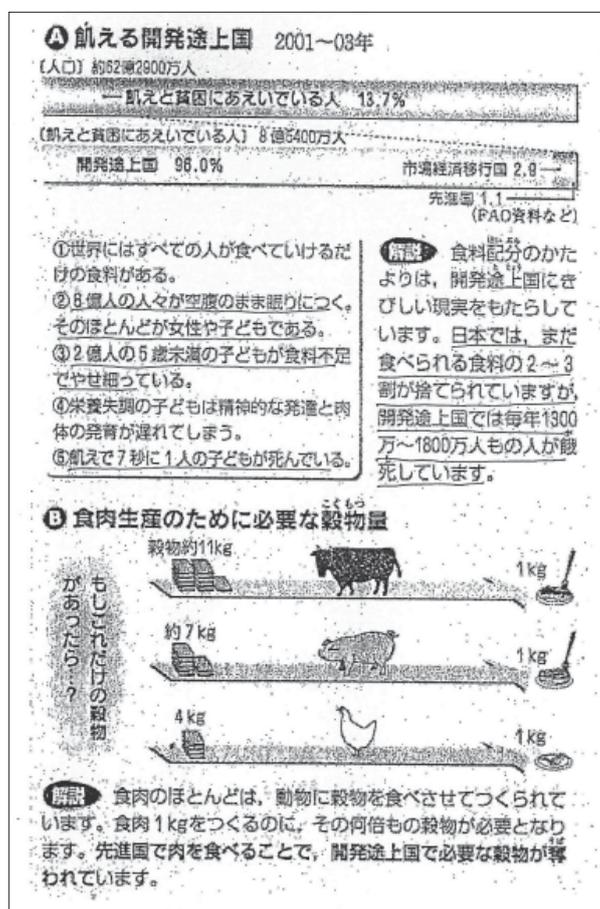
の2つを提示し、途上国と自分たち（日本）にとってよりよい方法はどのようなものか、考えさせたいと思います。

### ◆◆◆ 授業の構想について ◆◆◆

(◎…授業者 ○…所員)

#### 〈授業のねらいについて〉

- ◎『社会科資料集』の「飢える開発途上国」をもとに「途上国の飢餓」について考えたいと思います。しかし「肉食をやめたら何がどうなるか」ということについては、この資料では不十分だと思いました。  
流通や経済についての学習を終えてから扱えば、流通や食肉加工に携わっている人についても考えられるのではないかと考えています。
- 「日本の立場で考える」と肉食はやめないということです。
- ◎そのあたりを子どもがどう考えるのか、肉食を「やめよう」と考える子もいると思いますが、「やめないで、何かいい解決の方法はないのか」という方向に議論が進むようにしたいと考えます。
- 資料の「解説」に先進国の問題が書かれています。「わたしたちは途上国の食料を奪う」というストレートな表現が強く印象に残りました。
- ◎授業のねらいとしては、この問題（途上国の飢餓）について子どもたちが知ることが第一だと考えます。まず、このような現実があることを知るということです。
- 子どもたちは、絶対的に食料が不足しているから飢餓が生まれると考えているのではないか。「世界にはす



浜島書店「社会科資料集」より

べての人が食べていけるだけの食料がある」ということについて「へえ～、そうなんだ」と思い、飢えている人が8億人いることや、そのほとんどが女性と子どもだということに対しては「なぜだろう」と疑問をもつと思います。「なぜ、食料を買えないのか」という疑問も出てくると思います。穀物を飼料とし生産された「牛肉や豚肉は誰が食べているか」ということも問題になると思います。

## 共同研究者からひと言

### 牛肉を食べるのをやめれば食料問題は解決するのか？

牛肉1kg生産するのに穀物 11kgが必要だということが、中学生の使う資料集に載っていることに少し驚きました。飢餓の問題を説明する資料として大学でもよく使います。飢餓の問題をどう解決したらいいか、ということについては明確な答えをもち得ませんが、「私たちは途上国の食料を奪っている」というのは衝撃的な言い方です。

もし仮に、牛肉などの肉を食べずに穀物を飼料として使わなかったら、その穀物が途上国に流通するかというと、そうではありません。貧困な人々はその穀物を買うことができません。できた穀物は飼料とは違う形で、豊かな国に流れていってしまうのが現在のシステムです。牛肉を食べるのをやめたら、この問題が解決するというわけではありませんが、構造上は余剰穀物を家畜に食べさせることによって食肉を生産し、その肉を食べることによって余剰穀物を消費しているわけです。

流通に関わっている人もいます。アメリカは大量の牛肉を消費する国ですが、アメリカの食肉工場働いている人の多くはヒスパニック系の労働者です。もし、牛肉を食べるのをやめたら、(そんなことはあり得ないことですが) 食肉工場働いている人が大量に失業します。牛肉が食べられていることによって雇用が確保されているという側面もあります。

食料問題は解きほぐしがたい問題です。食べられる牛にしても本来の食べ物は穀物ではありません。牛は本来「草」を食べる動物です。穀物が飼料として与えられるのは、短期間で肥育するために人間が作り出したメカニズムです。

食が不自然な形でまかなわれている、自然から乖離した形の「食」に豊かな国は乗っかっているのではないのでしょうか。自然から乖離すればするほど穀物の(飼料としての)大量消費が行われる。穀物が様々に形を変えて豊かな国に流れていくということになります。

「解きほぐしがたい問題」だと言いましたが、飢餓の問題だけでなく、環境問題、自然から逸脱した形での食料調達、そこに関わる人の利害など、ざっと挙げただけでも多くの問題が絡み合っていることがわかります。

結論は出さずに、ハンバーガー1個食べることが「すごく複雑な問題」と絡み合っているということ子どもたちが知ることは大事なことだと思います。今日、例示された資料だけでは複雑に絡み合った問題が十分に見えてこないような気がします。

解決方法を探し出すのは難しい課題ですが、毎日食べている「食」というものが、非常に複雑な連関の中にあるということ子どもたちがキャッチすることができたらいいのではないかと思います。



前回の所員会議で議論したことをもとに「途上国の飢餓について考えよう」の授業計画を修正しました。

#### 〈授業の流れ〉

- ①資料をパワーポイントで提示しながら、子どもたちに「地球上のすべての人が食べていけるだけの食料があるのに、なぜ飢えている人々がいるのだろうか」ということを投げかける
- ②問題を投げかけたあと、①食のグローバル化・②食肉消費の増加・③穀物価格の高騰などによって貧しい人のところに食料が届かないことを説明する
- ③そのあと、公平に食料を分けるためにはどうしたらいいか考えさせる
- ④考えたことを400字程度にまとめる

子どもたちには、このような問題（食料問題）が存在していることを知らせ、自分との関わりをもたせながら考えてほしいと思っています。学習のまとめとしては、「食料問題についての感想や、食料問題と自分との関わり、自分としては何ができるのか」などをノートに書き、オープンエンドの形で授業を終わろうと考えています。

#### 〈提示する資料について〉

前回、資料が少ないという指摘がありました。「社会科資料集」を使い「貧しい人のもとに食料が届かないこと」を補足したいと思います。

- 食の問題は、誰にも関係することなので考えやすい問題だと思います。資料の中の「さてどうしたら公平に分配できるかな？」というあたりが子どもにとって考えるポイントになると思います。3つのポイントが考えられていますが、どのように選びましたか？
- ◎わたしが選んだというより、資料集にあった投げかけを使いました。難しい視点だと思いますが、それだけに子どもたちの考えや意見を引き出すことができると考えました。
- 「途上国の飢餓を考える」という学習課題に対し、子どもたちは3つのポイント以外に「輸入をしないようにしたら…」と考える者もいるのではないのでしょうか。
- ◎子どもに投げかけてみて、反応を見たいと思います。
- 最後の子どもたちへの投げかけ（学習のまとめ）ですが、子どもたちの中からどのような意見が出てくることを予想していますか。
- ◎子どもたちが食べるのをやめれば、問題が解決するということではないので、子どもたちには、「具体的な解決方法が見つからなくても、考えなくてはならない問題だ」ということを認識させたいと考えています。答えは見つからないけれど考えていかななくてはならない問題なんだということが（ノートに）書かれていればいいと思います。

### 食料問題について（「国際連帯と平和研究委員会」での議論から）

「途上国の飢餓について考えよう」という授業の提案をきっかけに、「食料問題」について話し合いがすすみました。「食料問題」は所員にとっても学ぶべきことの多い課題でした。

#### 〈穀物を投資の対象にすることについて〉

**所員：**穀物価格の高騰について「賭けの対象としてお金を出す人がいる」という記述がありますが具体的にはどのようなことを指しますか？

**所員：**簡単に言うと「投資目的」ということだと思います。

**所員：**それは合法的なものですか？

**共同研究者：**合法的なものです。いわゆる先物取引というものです。投資家に確実に儲けを配分しなくてはならないということで、収穫されることを見越して投資をします。このような投資の目的は利潤ですが、天候などにより収穫が極端に少なくなった場合でも、生産者に大きなダメージを与えないという側面もあります。

収穫を見越して（収穫される前に安く）買って（先物取引して）、価格が高くなったところで売る。売り買いにより実際の穀物が移動するということではなく、数字の操作でそれを行います。リーマンショック以前は、株価と株式と国債、一部の天然資源などが投資対象でしたが、リーマンショック以降は、絶対にみんなが使うもの、絶対に売れるものとして（穀物）に対する投資が集中し、それで穀物価格が高騰しました。

一部の投資家の金儲けということですが、民間が売っている年金保険や個人向けの資金運用などにも、穀物投資による利潤が入っています。退職金やボーナスで資産運用をしている人も、直接穀物投資はしていませんが、預け先の会社では集めた資金を穀物に投資しています。ですから、単純に「投資するやつは悪い」と言えないところがあります。

**所員：**金やプラチナなどの貴金属やレアメタルなどが先物取引の対象になり、お金を儲けたい人が投資するのはそれなりに納得できます。しかし、穀物を投資の対象とすることには同じような感情をもてません。金やプラチナなどは直接命に関わることはありませんが、穀物は投資による価格高騰で食べられない人がでてしまう。命に直結していますから。

**所員：**職業として穀物価格に投資している人はいるのですか？

**共同研究者：**大手金融会社はみなやっています。そこで（世界中の穀物の先物取引によって）穀物の価格が決定されています。もちろん個人で投資に参加している人もいます。

#### 〈豊かな生活に潜む地球的な問題に気付く〉

**所員：**人それぞれが生活するための富を得る手段として穀物投資を選ぶ人がいることは納得できます。ただし、生産者が得る利益に対して、流通の中間にいる人の利益がそれ相応のものであればいいと思います。富の配分に極端な差があったり、生産者の利益が低く抑えられたりするのはどうでしょうか。

**共同研究者：**すごく難しい問題です。生産者が手にするのは最終価格の2割程度とも言われています。あとの8割は、輸送、流通、加工、あるいは投資の利益などに分配されます。途上国の生産者が買ったたかれる場合にはもっと少なくなります。生産者が適正な販売価格を得ていない、生産から最終的な販売にいたるまでの利益が適性に分配されていないという深刻な問題が存在していると思います。ポール・ロバーツは、『食の終焉』という本で、「世界の食料生産は制御不能の段階に入った」と書いています。生産者が最終的な販売価格の2割しか手に入れることができない。買ったたいている商社が悪いのか、商社から買っている加工業者が悪いのか…。それぞれが「できるかぎり安くあげろ」という圧力を受けています。「安くしろ」という圧力をかけているのは私たち消費者だというわけです。消費者が「安く、安く」と言う故に、それが最終的には生産者のところにしわ寄せとなっている。生産者や流通に関わる人も適正な富が得られないと消費者も困るといった負のスパイラルに組み込まれているというわけです。

「肉を食べるのを少しやめよう」という子どもたちの感覚は、それはそれで大切なものだと思います。「遠くの国で飢えている人がいるね」といった話と「遠くの国で飢えている人たちと、自分たちの生活がつながっているんだよ」という話では、ずいぶん違います。「自分たちが受け取っている豊かな生活というのは地球規模で考えると、問題を含んでいる…、らしい…、かもしれない…」ことに気付くことが大事だと思います。解決策は見えていませんが…。問題を含んでいることを認識しても「自分たちは悪いことをしているんだ」と後ろ向きにならないことも大切なことだと思います。

## 児童労働について考える

調べ学習や話し合いを通して問題を考える授業をしたいと考え、教科書に載っている「発展途上国の都市と貧困」という資料を使って授業をすることを考えました。生徒にとって「学校に行きたくな〜い」と思うこともままあるようですが、学校に通うという当たり前のことができない子どもたちがいることを知り、当たり前のこと、普通のことについて考えたいと思います。

### ◆◆◆ 授業の構想 ◆◆◆

#### ① 学習課題の提示

T：日本では少子化が問題になっているが、世界ではどうだろう？（資料：国別の人口推移のグラフ）  
C：増えている。先進国では減り、発展途上国では増えている

#### ② 学習課題を捉える

T：なぜ、先進国では減少し、発展途上国では増えているのだろうか？  
C：先進国では夫婦で働いている。発展途上国では子どもが労働力と考えられているから

#### ③ 児童労働の実態を知る（資料：児童労働の写真資料、資料集）

- ・カカオ豆の農場で働いている子どもはチョコレートの味を知らない
- ・サッカーボールを作っている子どもがいる
- ・兵士として命の危険にさらされている子どもがいる
- ・わずかなお金を得るために、危険を冒しゴミに群がる子どもがいる

#### ④ ディベートによる学習（A・B2つのチームに分かれて話し合いを行う）

C：カカオ豆の製造に子どもが関わることに反対（A）  
C：学校に通うことができない（A） ひどい扱いを受けている（A）  
C：子どもが働くことはやむを得ない（B）  
C：安いお金で労働力が確保できる（B） チョコレートを安く製造することができる（B）

#### ⑤ 学習のまとめと評価

- ・ディベートにより、相手の意見に耳を傾け、幅広い見方や考え方ができるようになる
- ・問題意識をもち、自分の考えをもって、それを根拠に意見を言うことができるようになる

### ◆◆◆ 授業の構想について ◆◆◆

（◎…授業者 ○…所員）

#### 〈ディベートという授業の形について：自分との関わりは？ ABどちらかに決められない？〉

- ディベートは、生徒の人格や意見に関係なく「賛成」「反対」を決めて、討論ゲームのようにして行われます。「発展途上国の貧困」をテーマにした学習では、ディベートではなく、友だちの意見を聞いて自分の意見を深める、話し合いを考えてもいいように思います。
- ディベートでは相手の意見を聞きながら自分の考えを修正するということがしにくいように思います。多面的なもの見方というのは自分の意見をもちながら話し合いに参加することで育つと思います。自分の価値観の関与があるほうが、相手の意見にも耳を傾けることができるのではないかと思います。
- 児童労働について、多くの子どもは「反対：子どもに働かせるべきではない」と考えるように思います。「A：カカオ豆の製造に子どもが関わることに反対」と「B：子どもが働くことはやむを得ない」に別れて根拠を探し議論をする中で児童労働の抱えている現実や問題などが明らかになると思います。ディベートの形でなければ、「子

どもが働いているのはおかしいよね。児童労働には反対」ということに終始してしまうのではないのでしょうか。

○最初から児童労働に「賛成」か「反対」かをたずねたら「反対」を選ぶと思いますが、調べていくとその現実の背景にあるものが見えてくると思います。そこまで学習が深まると、生徒は迷いながらも自分なりの根拠をもって意見をまとめると思います。ディベートにとらわれず、自分が調べてきたことをもとに相手が調べてきたことにも耳を傾けることが大事だと思います。

◎ディベートという形についてはもう一度検討したいと思います。児童労働により子どもたちが学校に行けないのはまずいけれど、働いてお金をもらうことがどうしていけないのか、と考える生徒もいると思います。子どもが働くこと（児童労働）について、特に今すぐ手だてをしなくてはならないものが幾つかあるように思います。例えば、兵士や人身売買などです。生徒は、児童が働くということの実態についても驚きながら知ることになると思います。生徒には児童労働の学習を通し、日々学校に通えることの幸せを少しでも感じてほしいと思っています。

### 〈なぜ、児童労働が存在しているのかを考える〉

○Aが、「カカオ豆の製造に子どもが関わることに反対」なら、Bは「カカオ豆の製造に子どもが関わることに賛成」と対立的な判断が設定されるだろうと思いましたが、Bは「子どもが働くことはやむを得ない」となっています。授業者は、問いに対して生徒が対立的に議論をすすめることより、意見交換しながら自分の考えが変わっていったり、見方が広がっていったりすることを目指していることがうかがえます。「やむを得ない」という立場からは「なぜ、やむを得ないのか」「なぜ、児童労働が存在するのか」と議論が広がっていくと思います。

### 〈白黒をはっきりとさせることができない生徒の考えの深まりを可視化できないか〉

○生徒は児童労働に「反対」と思っても、「やむを得ない」という気持ちが4、「反対」という気持ちが6ということがあります。学習していくうちに自分の気持ちが動く、そんな生徒の気持ちの変化を可視化できると、生徒も教師も心の変化を見ることができると思います。

## 共同研究者からひと言

児童労働の問題は、ほとんどの子どもが「反対だ、あってはならない」と考えると思います。更に考えていくと、子どもが働かざるを得ない現実があることに気がきます。生徒の判断は、ますますグレーになっていきます。白黒はっきりしないのは生徒にとって辛いことだと思いますが、「判断が難しい」ということに気付かないと、児童労働が行われている国に「経済制裁をすればいい」といったことで終わってしまいます。「児童労働は悪いことだ」で終わると「やっている国はほとんどない」で終わってしまいます。

やらざるを得ないという現実は何によるのか。父親がいなくなって母親はエイズに感染して働けない、そのような家族を支えるために毎日働いている子どもたくさんいます。子どもが働くのを止めてしまったら、一家が生きていけないわけです。そういう現実を考える方向に、つまり「反対」から（やむを得ないという言い方が適当かどうかわかりませんが）「やむを得ない」に考えが変わる生徒も多いと思います。子どもたちが置かれている現実を変えないかぎり児童労働というのはなくならないわけですから。食料の問題も児童労働の問題も、一見すると白黒がはっきりとしているように見えますが、実際の問題はとてつもなく複雑でグレーな問題です。多面的に考えざるを得ない問題だと思います。



前回の授業構想についての議論を踏まえ、ディベートの形にこだわらず、多面的なものの見方を育む授業に修正しました。

### 多面的なものの見方を育む授業

#### ①調べる：グループごとにテーマを決めて

「児童労働について調べてみよう」という投げかけではあまりにも間口が広いことから、資料集に掲載されている、図書室に参考資料があることなどを考慮して、教師が幾つかのテーマを選びます。その中から生徒が選び、調べ学習をすることとします。テーマとしては次の5つを考えました。

- A：ゴミ拾いをして働く子ども
- B：カカオ農園で働く子ども
- C：兵士として働く子ども
- D：サッカーボールを作る子ども
- E：ストリートチルドレンの実態

これらのテーマについて調べることによって、児童労働がどこかの国で起きているという知識から、自分とのつながりの中で考える問題になることを期待しました。調べたことを「発表し合う」ことを見通して、発表に必要な数字や写真などの資料を用意したり、プレゼンのことを考えたりしながら調べ学習をすすめることを指示します。

#### ②調べたことを発表し合う：違うテーマについて調べた人の話を聞く

グループで分担して調べ学習を行ったことを発表し合います。人の意見を聞くことを通して、児童労働をしている子どもたちの立場に立ってものを見たり考えたりすることを期待します。

#### ③価値のランク付け

調べ学習は個人やグループでの活動が主になるので、問題の共有化を図る場面が必要だと考えます。同僚から、解決の手段が明確にならない課題（地球的問題群）のまとめについて、「価値のランク付け」をしたらどうか、というアドバイスをもらいました。「価値のランク付け」というのは、どの問題の解決が「一番早急に求められているか」という観点からランクを付けるということです。「兵士として働く児童」が一番にランク付けされるのではないかと予想しました。

### 結論を一つに絞り込めない不確かさ（グレーな状況）の視覚化

深刻で複雑な問題については、結論を一つに決められないということがあります。「グレーな状態」です。今回の学習テーマにおいても「絶対に許されない」から「しょうがない」まで、子どもたちの判断は様々だろうと予想しました。

グレーな状態の自分の判断（考え）を視覚化するために、自分の考えをグラフで表すことを考えました。学習前、調べ学習の段階、発表を聞いて、まとめ、それぞれの段階で自分の判断（考え）を「絶対にいけない⇔やむを得ない」までの間のどこにあるかを図示することで、自分の判断を確認することができます。教師にとっては、子どもたちの問題に対する認識や関わりの深化の様子を把握する材料になります。次のようなグラフの案を考えました。



絶対にいけない

やむを得ない

\*自分の考えを「絶対にいけない」から「やむを得ない」までの5段階で表す

**最初に、児童労働の定義について ● 共同研究者から**

家の仕事が忙しくて、それを子どもが手伝うといったことは児童労働とは言いません。子どもの生活時間のほとんどが労働時間になっていたり、本来子どもがやるべきではないような労働（農薬を浴びながらカカオ豆を収穫するなど）をしたり、量的なことと質的なことから児童労働は定義されます。児童労働と児童虐待労働は区別されています。貧しい社会ですと、児童虐待労働はいけませんが、児童労働はある程度「認められて」いる場合（一家の生計維持に参加するなど）があります。

**〈難しい、価値のランク付け〉**

- 児童労働が「やむを得ない」ということを、子どもはどのように考えるのだろうか？
- ◎児童労働といっても様々で、観光地で土産物を買っている子どももいます。なぜ、兵士にまでなったのか、（兵士にならなくては）食べていけない、生活をしていけないという背景があると思います。生徒たちにはそのあたりのことを考えてほしいと思います。労働のために「学校に行けない」という事実に対して、「学校に行けないなんてラッキーじゃん」という反応も予想していますが、なぜ学校に行けないのかということを考えてほしいと思っています。
- 「絶対にいけない」と「やむを得ない」の両方に印を付けたい生徒もいるのではないかな。
- 「児童労働をしている子どもをどう評価するか」と「児童労働という社会現象をどう評価するか」といった2つの視点が混ざり合っているように思います。児童労働を「やむを得ない」とするのは、児童労働を認めてしまうということになりはしないでしょうか？

**〈あえて価値のランク付けをすることによって期待したい、認識の深まり〉**

- どれも絶対にいけないことなので、ランク付けができるのかどうか…。ランク付けしにくい事柄についてあえてランク付けをすることによって、問題の把握がより深くなるということは期待できるように思います。
- 価値付けをするとき、自分が調べたテーマについて強い思い入れがあると、価値のランク付けが難しくなるように思います。基本的人権が守られている自分たちと比べ、やむなく児童労働をしている子どもはどのような権利がないがしろにされているか、ということに目を向けることによって、何らかの判断の根拠が得られるように思います。
- ◎調べることによって、児童労働する子どもたちに対する思い入れが生まれることも予想されます。どれも「あってはならない」ということにあえて価値のランク付けをする葛藤が、自分たちの置かれている状況と比較することにつながることを期待しています。

**〈児童労働の社会的な背景にまで目を向けることで、価値のランク付けの意味が深まる〉**

- 自分が調べた悲惨な状況が、それを生み出した社会の背景につながらないと「ひどい」「かわいそう」で終わってしまいます。その背景がわかると「やむを得ない」と「絶対にいけない」の間のグレーのところに入っていくことができると思います。
- ◎心のバロメーターの尺度を「絶対にいけない」⇔「やむを得ない」としましたが、言葉の選択については迷っています。
- 「絶対にいけない」という投げかけもあるが、「一番早くなくしたいことは」という投げかけもあるのではないかな。調べてきたことを聞き、なんで「いけない」かを考えることで、命の危険、飢え、親と一緒にでないなどの問題も意識されます。生徒にとっては、単なるランク付けでは終わらないように思います。

## 共同研究者からひと言

真面目に調べ学習を重ねた生徒の評価というのは、「絶対にいけないことだけれどやむを得ない」というところに行くように思います。「絶対にいけないことだけれどやむを得ない」ということと、生徒はどのように向き合うか悩むと思います。そのときに、背景にある社会の仕組みにつながっていくことが大事なことだと考えます。貧しい家族を支えるために児童労働する子どもは「いい子」、貧しい家族を放っておいて学校に行く子は「悪い子」とされる地域もあります。日本で生徒たちが目にする資料には、労働のために学校にも行けないことは「悪いこと」という視点で書かれたものが多いと思います。「あってはならないことだがやむを得ない」ということを、生徒たちがどのように受けとめるかということが大事なことだと思います。しかし、「どうしてもないんだ」ということになってしまうと問題です…



## 実践報告

### 『児童労働について考える』

授業の流れ（指導計画と実践）については、43ページに示しました。3年生の2クラスについて授業をしました。1クラス33人の生徒を6つのグループに分けました。調べるテーマは前回検討した5つに「児童の人身売買」を加え、6つです。

#### ①1時間目…〈調べることのテーマを決める〉

T：グループごとに調べるテーマを決めます。テーマは次の6つです。どのテーマについて調べるかは、くじ引きで決めます

- A ゴミ拾いをして働く子ども
- B カカオ農園で働く子ども
- C 兵士として働く子ども
- D サッカーボールを作る子ども
- E 人身売買の実態
- F ストリートチルドレンの実態

C：くじ引きでグループごとのテーマを決める

T：グループの課題が決まりました。これらの課題に共通する問題は？

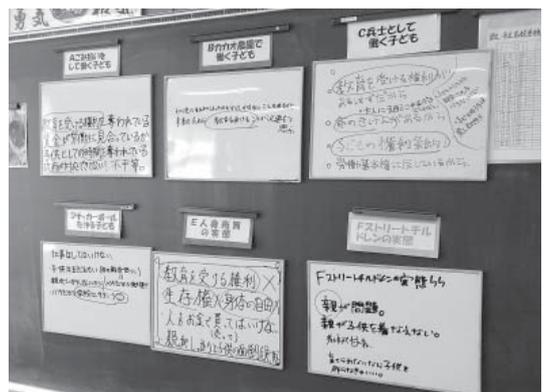
\*課題の内容がつかめるように写真や児童労働について書かれた資料を用意する

C：最初はお喋りをしていた生徒も、ヒントの資料を見るうちに真剣にグループでの話し合いに参加した

C：子どもが働く。貧しい国のこと

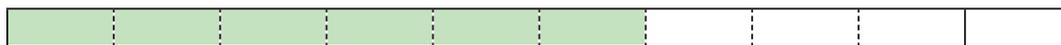
T：児童労働についての考えを、「心のバロメーター」に色で表してみよう

C：心のバロメーターへの最初の記入…「絶対にいけない」から「やむを得ない」の間を10に区切って、「絶対にいけない」を赤で「やむを得ない」を青で塗り分ける



絶対にいけない

やむを得ない



(「絶対にいけない」という気持ちが6、「やむを得ない」という気持ちが4を示している)

「絶対にいけない」(赤)を10マス塗った生徒が2人いました。いずれも外国籍の子どもです。家庭は貧しいわけではありませんが、帰国したときに貧しい現実を見ているのかもしれない。

## ② 2時間目…〈調べ学習にとりくむ〉

調べ学習の時間が1時間で足りるか心配していましたが、生徒は真剣にとりこんでいました。調べたことをもとにミニレポート(資料:1)を書きましたが、「ええー、信じられない」といったつぶやきが多く聞かれました。

## ③ 3時間目…〈他のグループの調べたことを聞く:事実の共有〉

T:自分たちの調べたことを発表し聴き合い、事実(情報)を共有しよう

C:AからFのグループから最低1人ずつが入るようにグループの組み替え、調べたことを発表しました。(発表の持ち時間を3分としたが、3分では足りなかったようです)調べたことを自分の言葉で話し合っていました

C:3時間目の後半から価値のランク付けに入りました。6つの項目(選択肢)を「今すぐやめてほしい」という気持ちの強いものから順番に書きました

## ④ 4時間目…〈価値のランク付け:学習のまとめ〉

生徒は、「兵士として働くこと」「人身売買」を上位に挙げ、「命の安全が保障されていない」「人身売買は人間としての扱いがされていない」ということを理由として述べていました。「ストリートチルドレン」に対しては「家がない」ということに心を動かされていたようです。「ゴミ拾い」や「カカオ農園で働く子」については、仕事の中身のひどさは理解していましたが、順位は下位でした。「どれもやめてほしいよね」と言いながら順位を付けているグループもありました。最初に「心のバロメーター」で10を付けたサッカー好きの生徒が「サッカーボールは遊びに使うものだ。サッカーボールを作りながらちょっと話をただけで吊されたり、食事を抜かれたりするなんて…、いかん!」と激しく言っていたのが印象的でした。

グループごとの価値のランクを発表し合ったあと、クラス全体で話し合い、価値のランク付けを行いました。2つのクラスでのランク(すぐにやめてほしい順位)は、次のようでした。

①人身売買 ②兵士 ③ストリートチルドレン ④サッカーボールを作る ⑤カカオ農園で働く

①兵士 ②人身売買 ③ストリートチルドレン ④サッカーボールを作る ⑤カカオ農園で働く

「児童労働」についての学習のはじめの段階では、「子どもたちを捨てた親が悪い」「親の道徳観がない」など親を責める発言も多かったが、調べていく中で「子どもを食べさせてやることのできないほど貧しい」「兵士になったりストリートチルドレンになったりする方が食べ物にありつける」ということもわかったようでした。

生徒一人一人の「心のバロメーター」については「資料:2」に一覧としてまとめました。

物事を多面的にとらえる子ども  
～児童労働を考えることを通して～

- A「ゴミ拾いをして働く子ども」
- B「カカオ農園で働く子ども」
- C「兵士として働く子ども」
- Dサッカーボールを作る子ども
- E人身売買の実態
- F「ストリートチルドレン」の実態

与えられたテーマに沿って調べよう



- これらは何が問題なのだろう。
- ・人権が無視されている。
  - ・生存権がない。
  - ・安全が保障されていない。
  - ・教育を受けることができない。
  - ・貧困の連鎖がおこり、いつまでも貧しい。
  - ・大人を信用しなくなる。
  - ・自由がない。

生活していく上で子どもにも必要だよ。

貧しさのため学校に通えない子どもは、800万人も。

このような実態があることを知らなかった。

ゴミ拾いはよい事だと思っただけ、命にも関わるけがをする人もいた。

ストリートチルドレンって何？

明日が来るかわからないよ。

チヨコレートを食べたことがないなんて。

子どもの心の変化よみとろう

違うテーマで調べた人の意見を聞こう

しゃべっただけで食事がぬかれるなんて。

子どもにとって、兵士になることはやむをえないこと。なくすには悪いことだと教えなければいけない。

私たちの生活とはかけはなれているけれど、他人事ではないんだ。

ひどい扱いをされて仕事をやめると取入がなくなる。



教師によるまとめ

- 読み聞かせ。
- ・夢は大人になること。
  - ・心が豊かである子どもが多
  - ・さんいる。
  - ・不幸であること、貧しいことは別問題

学習を終えて

- ・日本の「当たり前」は世界では当たり前ではない。
- ・どんなに恵まれているかわかった。
- ・自分たちに何ができよう。

「絶対にいけない」と思う順に番号を書こう。

「命の危険がある」こと「飢餓」どちらの解決を急がなければいけないか。どちらでもなあ。

平和な生活をおくするためには「政治」「経済」両方がしっかりとっていないといけない。

「子ども兵士」と「人身売買は絶対にだめだと思っでもどっちが1番だろう。」

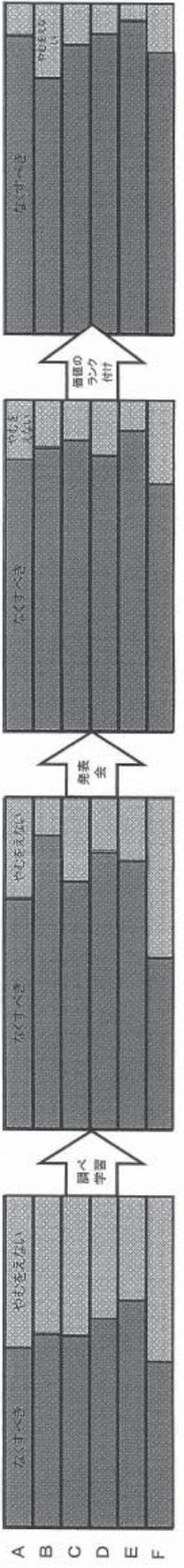
「安全」「飢餓」の両方が保障されていない。

- CとEは命が保障されていないし、人間扱いされていない。FとAは食べるものがない。DとBは、大変な労働だが、食べる物はあるから。



知らなかった実態を「知る」→知ったことを「自分の問題」としてとらえる。→友達と自分との「考えの違い」に気づく。

児童労働って絶対になくすべき？それともやむをえないこと？



**授業を終えて：授業者から**

今回の授業の課題の一つに、知らなかったことを知るということがありました。生徒は「かわいそう」ということから学習を始めました。次に、「どこかの国の出来事」ではなく、できるだけ自分の問題として考えてみることにとりくみました。そのとき、価値のランク付けや心のバロメーターが手がかりになったようです。かなりの生徒が課題に込めていくと思いますが、「かわいそう」という感想から次にすすめない生徒もいました。

**〈心のバロメーター〉に表れた生徒の心について**

- 資料：2の「生徒の心のバロメーター」の結果を大変興味深く見ました。学習がすすむにつれて、「児童労働」に対する生徒の認識が深まっていく様子と「児童労働」に対する生徒の気持ちの変化がよくわかりました。
- Bの「カカオ農園で働く子ども」について調べた上から6番目の子どもは「4」を付けています。ということは、「やむを得ない」という気持ちの方がやや強いということですね。この生徒はどのような理由で「4」を付けたのでしょうか。
- ◎学習に対して普段から積極的な生徒で、児童労働の原因として「国の政治が悪い」ということに注目していました。ミニレポートにも「国の政治が悪いから」ということが書いてありました。国の政治が悪いために子どもたちが苦しみを強いられている、と考えています。「やむを得ない」という気持ちに傾斜しているのは、「その子の責任ではない。その子にとってはやむを得ない社会環境だった」ということだと思っています。

**共同研究者からひと言**

非常に興味深い実践でした。事実認識と価値判断をクロスさせながら授業がすすめられたことで、生徒は客観的な事実を知りながら自分はどうか考えたかということや、他のグループの発表をどう聞いていたかということがよくわかります。認識の深まりがあった授業だと思いました。この手法は大学のゼミでも通用します。自分の大学の学生にもやってみたいと思いました。

**〈心のバロメーター〉に表れた生徒の認識の深化**

- 授業の構想（計画）を聞いたときに、価値判断に上下は付けられないと思ったのですが、生徒は発表を聞いたあと、AからFまでの事象に対して、価値のランク付けを行いました。それによって「やむを得ない」と考える生徒もいたろうし、「絶対にいけない」と考える生徒もいたと思います。いずれにしてもかなりの生徒が、授業のはじめと最後では心のバロメーターの値が変わっています。心のバロメーターを記入しながら、よく考えたと思いました。
- ミニレポートや授業後の感想を読むと、「私たちが考えられないような生活をしている子どもがいました。その子が文句を言ってないことに感動しました」と「かわいそう」という同情でなく、尊敬に近い感情を抱えていることがわかります。また「日々の生活に感謝したい」とか「日本の子どもたちはどれほど恵まれているかわかった」とか、自分たちの生活に投影しながら「児童労働」について考えています。「児童労働」といった問題がちみつに考えられた授業によって生徒の認識の深まりと広がりを引き出していたと思います。
- 自分も生徒の書いた感想に注目しました。価値付けをすることで自分自身の生活と比べて考えたと思

ます。当初授業者が予想した以上に生徒は深く考えることができたと思えました。言いたいことがいっぱいあって、その時間では言い切れない生徒たちの様子が伝わってきました。

- ◎普段、あまり真剣にとりくまない生徒が真剣に考えていました。価値のランク付けについての6つの選択肢は（自分たちと）異なる社会的な背景をもっています。そこを生徒がどう理解するか気になっていました。ランク付けは乱暴ではなかったかという思いは今ももっています。このやり方がベストではないことは承知していますが、生徒に真剣に考える場面を与えることができたことはよかったと思えます。
- グループでの発表を聞いている段階では「3」「4」「6」などの評価をしていた生徒がかなりいます。多分、その生徒にとって初めて知る事実だったからだと思えます。どのような背景のもとに事実が生まれているのかということがわかり、児童労働する子どもにはやむを得ない理由があることが理解されたのだと思えます。最後に、そのことについてどう評価するのかの判断を求められたときに「あってはならない」という判断になったのだと思えます。その様子が、最後の心のバロメーターの数値に表れていると思えました。生徒一人一人の考えの変化がよくわかりました。

### 〈生徒の「児童労働」に対する判断について〉

- 人身売買と児童の兵士の問題について調べたのは、資料：2のCとEのグループですが、それ以外のグループでも深刻な問題だと捉えていることがわかります。発表を聞いて事実を知り、自分の考えを深めていったことがすごいと思えました。真剣に聴き合う内容がそこにあったのだと思えます。

#### 共同研究者からひと言

最後の「価値のランク付け」の結果についてですが、2つのクラスでほぼ同じような結果になっています。国連がやっている「世界の子ども人権政策」で、トッププライオリティー（優先順位）は人身売買と児童兵士の問題です。「最も深刻な人権侵害であり、すぐに改善されなくてはならない」としています。生徒がこの授業を通して学んだ正義は国際的な優先順位と同じでした。これはすごいことだと思います。

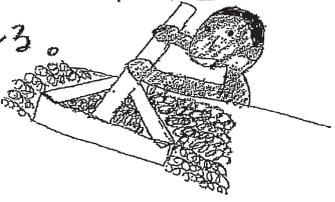


◎調べたことをミニレポートにまとめよう。  
実態が相手に伝わるように、具体的に書こう。

タイトル **子供は売るために生まれてきたの？**

世界では約180万人の子どもが人身売買の被害にあっている。  
 おりやり連れ去られたり、だまされたり... でも一番多いのは  
**家族がお金とひきかえに売ること。**

売られている子どもたちは工場労働などの苦しい仕事を  
 あたえられ、ときには暴力や犯罪に利用される。  
 男子は、戦場で兵士として働いたり、  
 肝臓や腎臓などをとられて売買する  
 危険なとり引きなどに利用される。



人身売買は世界の多くの子どもの未来を  
 こわしてしまふ。

◎調べたことをミニレポートにまとめよう。  
実態が相手に伝わるように、具体的に書こう。

タイトル **子どもが兵士になることの現実。**

**いりやり連れ去られる子供達**

村が普段と変わらない生活をおくっていたはずなのに、急に村にきた男たちに、子供たちは連れられていかれた。  
 親はどうすることもできないのが現実だった。

**逃げた子**

逃げたある男の子は、もと村にたどりついたが、家族は行方不明。村人も喜ぶことがなかった。今は、また誘拐される危険がはびこっている生活している。

→

↓

**子どもがやとられる**

勢力が必要な軍は、大人の男の人達が、戦死してしまうと子供を使って戦いを進めると方法がなくなるとから。

**強制的な仕事と人殺し**

ある男の子は、逃げた知り合いの子が自分の目の前でなだりさせられ、殺されるのを目にした。そして自分自身も、仲間のはずの子ども達と殺し合いをさせられた。でもこの殺し合いは「入隊の儀式」であり、実際の戦いではない。

まとめ  
この現実をなんとかしたい、でも、実際には今の和議はなしにもすることもできない。世界平和は、大国だけが自衛隊の力でなく、世界平和の風がそよ風にならなければいけない。

話し合いは  
単は本人の事情

資料：2 生徒の心のバロメータの変化

赤色で塗られた「絶対にいけない」の値を示しました。「絶対にいけない」から「やむを得ない」は10段階に区分されています。「.5」の表示は、塗り分けられた位置が区分の中間にあったものです。

	生徒	学習の各段階での「心のバロメータ」									授業後
		調べ学習の前	調べ学習の後	グループの発表を聞いた後						発表を聞いた後	
				ゴミ拾い	カカオ農園	兵士	ボール	人身売買	路上生活		
Aグループ ゴミ拾いをして働く子ども	A1	5	5		10	10	5	10	5	8	9.5
	A2	5	10		3	8	6	4	3	5	9
	A3	5	8		8	10	8	9	9	10	9
	A4	5	10		10	10	10	10	10	10	10
	A5	5	4		6	7	10	9	8	7	8
	A6	7	7		5	5	10	10	10	5	8
	A7	5	5		8	6	8	6	8	9	9
	A8	8	9.5		9.5	10	10	10	9	10	10
	A9	4	5		7	7	10	10	10	9	9
Bグループ カカオ農園で働く子ども	B1	5	8	8		10	6	10	8	9	9
	B2	6	9	10		5	10	5	10	9	5
	B3	4	9	5		10	10	6	8	8	8
	B4	7	8	8		10	4	10	6	7.5	7.5
	B5	8	10	8		10	10	9	10	10	9
	B6	3	10	7		8	6	10	4	8	4
	B7	7	10	4		8	10	10	10	8	10
	B8	3	6	6		7	6	8	8	7	6
	B9	6	10	6		10	8	10	8	10	10
	B10	6	10	6		10	8	10	8	10	10
Cグループ 兵士として働く子ども	C1	7	8	9	7		9	6	7	9	9
	C2	8	10	7	6		8	10	8	9	9
	C3	4	7	6	10		10	10	10	10	10
	C4	5	10	7	8		8	10	8.5	9	9
	C5	7.5	9	3	8		7	9	9	8	8
	C6	5	7	6.5	10		10	10	4	8	7
	C7	5	7	7	6.5		10	8.5	10	10	10
	C8	1	2	9	9		9	10	10	10	10
	C9	9	9.5	8	8		9.5	9	7	10	9
	C10	7	8							9	9
	C11	6	7	5	5		7	10	6	5	6
Dグループ サッカーボールを作る子ども	D1	3	6	3	4	10		10	6	8	9
	D2	4		7	6	9		10	10	9	9
	D3	10	10	10	10	10		10	10	10	10
	D4	7	6	7	6	9.5		9	7	7	8
	D5	8	9	7	8	8		10	10	9	9
	D6	7	10	9	9	10		10	10	9	9
	D7	4	10	4	6	7		9	8	6	10
Eグループ 人身売買の実態	E1	9	7	10	8	10	7		10	10	10
	E2	7	9.5	8	8	9	9		9	9.5	10
	E3	9	10	8	6	9	10		4	7	9
	E4	3	3								
	E5	9	9.5	7	9	9.5	8		9	10	10
	E6	10	10	3	6	10	10		10	10	10
	E7	5	6	8	8	10	8		8	9	10
	E8	4	8	9	8	9	10		10	10	10
	E9	6	9	6	6	10	7		5	7	8
	E10	7	10	8	7	10	8		10	9	8
Fグループ ストリートチルドレン	F1	6	4	6	7	7	7	10		8	9
	F2	6	3	3	7	8	7	7		8	9
	F3	5	4	7	7	10	5	10		8	9
	F4	5	4	6	8	10	7	9		9	7
	F5	5	8	7	7	8	7	9		9	9
	F6	7	8	4	5	8	7	9		8	10
	F7	1	2	5	2	10	8	10		6	6
	F8			5	9	9	10	10		5	9.5
	F9	5	8	6	2	10	7	8		7	8
平均		5.88	7.58	6.70	7.07	8.89	8.22	9.08	8.21	8.43	8.76

生徒

- ・授業をした2クラスの生徒全員の記録です。学級の区別はしてありません。
- ・調べ学習のテーマごとにまとめて記載しました。

調べ学習の前

- ・調べ学習に入る前、学習のねらいと児童労働の概要を説明した後の記録です。児童労働全体についての心のバロメータが示されていると考えられます。

調べ学習の後

- ・自分たちのグループの課題について調べ学習を行った後の記録です。特に指示はしませんが、自分たちで調べたテーマについて答えているものと考えられます。

グループの発表を聞いた後

- ・調べ活動をしたグループから最低1人が入るように、グループを再編成して、お互いの調べたことを聞き合いました。
- ・順番に調べたことを発表しました。それを聞いた後の記録です。発表されたテーマについての心のバロメータが記録されています。
- ・自分が調べたテーマについては発表していますので、心のバロメータの記録はありません。表では空欄になっています。
- ・表中の縦書きの見出しはスペースの関係で、授業で生徒に提示した文言とかかわっています。

発表を聞いた後

- ・一通り発表を聞いた後の心のバロメータの記録です。発表を聞いた後の児童労働全体についての心のバロメータが記録されていると考えられます。

授業後

- ・4時間の授業を振り返り、価値のランク付けや学習のまとめを行ったところの心のバロメータの記録です。

平均

- ・授業を行った、2クラス56人の生徒の心のバロメータの平均値を示しました。
- ・学習の前と後では児童労働に対してどのような意識の変化があったのか、テーマごとに心のバロメータはどのような変化しているのか、授業に参加した生徒たちの変化の様子を大づかみにすることができると思います。

## 友だちの意見を聞き考えを深める

### 自分が選んだキーワードを使ってまとめる ● 明治維新（2年）

「明治になったこと（明治維新の歴史的意義）」について学習したことを自分が選んだキーワードを使ってまとめます。キーワードに何を選ぶかによって明治維新に対する切り口が変わります。子どもたちが明治維新を多面的に捉えることを期待しました。

### 実践報告

#### 学習の流れ

##### ① 明治維新の学習で印象に残っている言葉を選び出す

T：明治維新について学習したことを思い出してみよう

C：五箇条の御誓文 大日本帝国憲法 文明開化 地租改正 内閣制度 中央集権国家  
 版籍奉還 富国強兵 学制 徴兵令 殖産興業 民撰議院設立の建白書 岩倉使節団  
 廃藩置県 福沢諭吉 自由民権運動 板垣退助 征韓論

##### ② 「明治維新」によって社会はどのように変化したのかキーワードを選びまとめる

T：キーワードを選びましょう

C：「明治維新」を語る言葉（キーワード）は「五箇条の御誓文」だ

C：江戸時代は武士が政治の中心（幕府）で鎖国をしていたが、明治になると内閣総理大臣が誕生し天皇を中心とした政治が行われるようになった。そのきっかけとなったのが五箇条の御誓文だから

T：キーワード（五箇条の御誓文）を使って、明治維新についてまとめてください。必要なら2つめのキーワードを加えてもいいです。キーワードとして選んだ言葉を書いてからまとめをします

C：ほとんど子どもが、2つめのキーワードを選び「明治維新」についてまとめた

#### 子どもたちのまとめ

##### C1：五箇条の御誓文・天皇

五箇条の御誓文は、明治維新と同時に生まれ、今までの政治方針とまったく違ったやり方を示したものです。江戸幕府は武士が中心で、外国と貿易をせず、鎖国や武力で解決をしようとしたが、明治維新によって、天皇を中心とする国家がつくられ、政府・内閣総理大臣により外国との交際が深まりました

##### C2：五箇条の御誓文・大日本帝国憲法

五箇条の御誓文は、新政府で生まれ、大日本帝国憲法により江戸から天皇中心の明治へ移った

##### C3：五箇条の御誓文・大日本帝国憲法

明治維新から五箇条の御誓文という形で新しい政治を始めたけれど、大事なものは大日本帝国憲法だと思いました。1889年2月11日、天皇が国民に与えるという形で発布された。この憲法で、天皇が国の元首として統治すると定められ、いろいろと関わっていった

#### C4：五箇条の御誓文・大日本帝国憲法

江戸から明治に変わるにつれて、政治の中心が武士から天皇に変わり、政府の新しい政治方針を定めた五箇条の御誓文がでた。また、欧米諸国に追いつくためにドイツを参考とし日本最初の憲法である大日本帝国憲法が発布された

#### C5：五箇条の御誓文・文明開化

世論を大切にして政治をすすめること、外国との交際を深め国を発展させることなどを新しい政治の方針として定めた。これを五箇条の御誓文という。近代化を目指す政策により欧米の文化が伝統的な生活に取り入れられ、生活が変わっていき、文明開化がすすんだ

#### C6：五箇条の御誓文・文明開化

明治になり、幕府にかわってできた新政府は、新しい政治の方針として、五箇条の御誓文を定めた。外国との交際を深め国を発展させる政策によって、欧米の文化がさかんに取り入れられた。伝統的な生活が変化し始めたことを文明開化という

### ◆◆◆ 授業についての話し合い ◆◆◆ (◎…授業者 ○…所員)

#### 「多面的なものの見方を育てる」という視点から授業を振り返る 歴史を様々な視点から見るのが歴史を学ぶおもしろさにつながる

- 今まで学習してきたことを使って自分の意見をまとめることは、すごく大事なことだと思います。明治維新をいろいろな面から見るにつながるように思います。私はこう思うけれど、他の人は違った見方をしているということが話し合われ、自分と違う見方があるということを知ることが大事だと思います。
- 「五箇条の御誓文」を学級としてキーワードに選ぶまでの話し合いが、一番おもしろいところだっただろうと思いました。キーワードを決めて文章にまとめるのは子どもたちそれぞれの考えや見方で書いていることなので、あとの問題は、史実とあっているかどうかといったことだと思います。
- 生徒たちが「五箇条の御誓文」を選んだということが意外でした。「五箇条の御誓文」をキーワードとして選んだということには、それなりの根拠があったのだと思います。「五箇条の御誓文」に納得していない生徒にもそれなりの理由があったと思います。歴史を一面から見るのではなく、自分なりの解釈をぶつけ合うことが歴史を理解する上で大事なことだと思います。「五箇条の御誓文」を選ぶことに納得しなかった生徒の意見に興味があります。
- ◎キーワードを選ぶというところで授業の半分以上の時間を使いました。中学2年生という年齢のこともあると思いますが、発言する子はどんどん自分の意見を発信しますが、できない子はそれを聞くばかりの子どもがいることが気になっています。人の意見を聞くことにとどまっている生徒が、多面的なものの見方とどのように関わることができているのか、そこのところが課題だと感じています。
- 自分は社会科を専攻した教員ですが、言葉と年代を覚えることをずっとしてきました。歴史が好きになったのは、ある事象をいろいろな視点から仕立てたドラマを見たり、研究者により加えられた様々な解釈に触れたりしたときでした。
- ◎社会科の授業を担当する者としては、多面的なものの見方を育てる一方、まず、共通して理解させておかななくてはならないことをしっかりと伝えるということを大事にしなくてはならないと考えます。共通理解したことに加えて、いろいろな見方もできたらいいということでしょうか。



委員会での話し合い

## 共同研究者からひと言

学習したことをもとに、自分たちでキーワードを決めるという授業のすすめ方に興味をもちました。明治維新という事象について、キーワードのつなぎ方を変えると違う像が見えてくると思います。授業実践では、政治の仕組みが変わったというところに視点が置かれています（指導要領的には一番理解させたいところだと思います）が、例えば「学制」「文明開化」「自由民権運動」とつなぐと、庶民がパワーをもち政治に意見を言えるような時代になったという像が見えてきます。「富国強兵」「徴兵令」「征韓論」とつなぐと、海外進出を開始した時代と受けとめることができます。キーワードを選ぶことによって、明治維新のもっている多面性を見ることができたように思います。



同じ「五箇条の御誓文」というキーワードから出発していますが、第2のキーワードを選ぶことによって、C5・C6のまとめをした生徒などは、政治の仕組みということと人々の生活や文化の変化ということに視点が当てられているように思います。第2のキーワードを選んだということが視点の広がりにつながったように思います。今回の授業で子どもたちが選んだ言葉の他に、「郵便制度」や「鉄道の開設」なども考えられます。これらの言葉をキーワードとして選ぶと、また違った明治維新の姿が見えてくるように思いました。

## コンビニエンスストアの開店場所を考える（3年）

「くらしと経済」の単元の導入として「コンビニエンスストアの開店場所を考える」という教材があります。単元の導入でもあるので、できるだけ様々な視点から考えることを授業のねらいとしました。また、自分の考えの変化や深化を視覚化する方法として、A～Eの開店場所の評価について10点を振り分ける作業を入れました。

## 実践報告

### 学習の流れ あなたがコンビニエンスストアを開店する場所はどこですか？

#### ①教師が用意した2枚の写真や教科書の資料を見てコンビニエンスストアの特徴を理解する

- ・ JR 駅前のストア…駐車場がない
- ・ 国道沿いのストア…広い駐車場がある
- ・ 商品ごとの売上高、利用者の年齢、週あたりの利用回数のデータ

#### ②ストアの開店候補地（A～Eが記された）絵地図を見て開店場所を決める

#### ③グループで話し合い、グループとしての意見をまとめる

- A…駅前なので利用者が多い
- B…集合住宅の1階なので、そこの住民が利用する
- C…駐車場があるので車で来る客が期待できる
- D…交通量が多いと思われる通りに面しているので集客が見込める
- E…レジャー施設や宿泊施設の客が利用する

- ・グループの意見を発表するためのキーワードを決める
- ・プレゼン用のホワイトボードを準備する（キーワードを使って）
- ・ワークシートを使い②・③・④・⑤の段階で、自分が開店しようと思う場所に10点を振り分ける（資料：1）。A～Eそれぞれのプラス面とマイナス面をあげながら、自分の考えをまとめる

#### ④各班の発表を聞き合う

- ・各班の発表を聞き、質疑応答をする

#### ⑤学習活動を振り返って、再度、自分の考えを練り直しその理由についてもまとめる

（資料：1…生徒Aのワークシート）

- ・生徒Aは最初はEの地点で開店することがいいと考えていたことがわかる…①

- ・生徒Aの属する班の話し合いではD・E → A・C → Bの順に開店場所の評価がされた…班

- ・班の話し合いに参加したあと、生徒Aは開店場所についてD・Eを候補にあげているもののがかなり迷っていることがうかがえる…②

- ・班ごとの発表を聞き終えたAの最終的な判断は、Aが最もふさわしいと考えたことがわかる…③

- ・最初の段階で評価が高かったEや学習の途中で比較的高い評価をしたD・Eについては友だちの発表を聞いて評価が変わったと考えられる

公民① 3年 組 番名前 \_\_\_\_\_

あなたが「コンビニエンス・ストア」を開店する場所は、どこですか。

・各場所A～Eのプラス面・マイナス面について記述する。  
・判定として、合計10点をA～Eに振り分ける。

場所	プラス面	マイナス面	① 班 ② ③		
			合計	10点	
A 例	・駅前なので鉄道やバスの利用者が通る。外出する客や、帰宅する客など。 ・幅広い年齢層が期待できる。 ・駅前の他店を利用する客が寄る。	・近くにスーパーマーケットあり、競合する。 ・敷地、場所が狭そう。 ・駐車場がなく、車での来店が期待できない。 ・地価が高そう。	2 2	2	6
B	・学校が近くにあり、学生が利用しそう。 ・上にビルがありそこで働いている人が利用しそう。	・駐車場がなく、車での来店が期待できない。 ・場所が狭そう。 ・地価が高そう。	0 0	0	2
C	・住宅があり、近くの住民が利用しそう。 ・病院が近くにあり、みまいるきた人が利用しそう。	・駅やビルから遠く働いている人の来店が期待できない。 ・夜の人通りが少なそうで夜の売り上げが期待できない。	0 2	2	0
D	・場所が広い。 ・前に大きな道路があり車での来店が期待できる。	・近くにレストランとデパートがあり、競合する。 ・学校から遠いため、10代の人々の来店に期待できない。	3 3	3	1
E	・近くにホテル、公園などがありそこにいった人が利用しそう。 ・近くにマンションがあり住んでいる住民が利用しそう。	・海が近いので、津波がきたらのみこまれる。 ・夜の人通りが少なそうで夜の売り上げが期待できない。	5 3	3	1

Aの理由は売上にしめる商品はファストフードなどが中心で、利用者の年齢は20～40代が中心としていて、その人たちがよくつかう駅+番 近くにあるからです

### 授業者から

この授業は3年生の経済の分野「くらしと経済」の最初の時間です。コンビニエンスストアの出店を考えたのは、子どもたちが自分の生活と関連させながら経済を考えることにつながっていったと思います。出店場所を考えるとといっても仮想の世界でのことです。話し合いが上滑りになる可能性もあります。友だちの意見と自分の考えをすり合わせ、自分の考えを深めるための話し合いになるように、自分の価値判断を可視化することを考え、学習の各段階で自分の考えを10点に振り分ける作業を加えました。教師にとっては生徒の変容の様子が把握できます。

#### 〈生徒には、経済の勉強って楽しいよ、と感じてほしい〉

○A～E、どこの場所が開店場所にふさわしいかということ結論づけるのですか？

◎経済分野の最初の授業ですからどこがいいかという答えを決めるのではなく、いろいろな条件を考え合わせながら、開店に最適な場所を探すことがねらいです。経済の勉強って楽しいと感じることができることが目的です。

#### 〈話し合いに参加して、自分の意見が変わっていく〉

○ワークシートがすごく工夫されていると感じました。考えが変わっていくプロセスがよくわかることがおもしろく感じました。話し合いをすることを通じて自分がどのように変わったかが、子どもにとっても教師にとってもよくわかります。

○「児童労働について考える」についての議論でもありましたが、ディベートの場合はコンビニエンスストアの場所は「Aがいいか、Bがいいか」という議論をするわけですが、話し合いをする、話し合いに参加することで、自分が気が付かなかったいろいろな見方や考え方を知って、自分の考えが変わっていく、そこが大事だと思います。考えがAからBに移るのではなく、考えが深くなってAからBに変わることが大事だと思います。

○教え導く授業も大事だとは思いますが、問題を自分たちで捉えて、どのような解決の手だてがあるか自分たちで考えるといった、話し合いによる問題解決をめざす学習も大事にすべきだと思います。話し合いによって自分の考えが変わる、そのプロセスを大事にした授業だと思いました。

## 国際連帯と平和研究委員会

### 所員

牧野 信隆 (東豆支部) 12	嶋田 成幸 (東豆支部) 13
石川 幸義 (沼津支部) 12~13	五十嵐崇人 (富士支部) 12~13
鈴木真一郎 (清庵支部) 12	稲葉 研二 (清庵支部) 13
梶山 高秀 (静岡支部) 12~13	榊原 藤寿 (志太支部) 12~13
河合 丈志 (磐周支部) 12~13	來住 訓世 (浜松支部) 12
倉田 智幸 (浜松支部) 13	鈴木 昭秀 (湖西支部) 12
尾崎 紀佳 (湖西支部) 13	

### 共同研究者

伊藤 恭彦 (名古屋市立大学教授) 12~13

### 事務局

細川 幹太 12~13	鈴木 千晴 12~13
井村由紀子 12	野中 律宏 13

## 子どもたちと地球的問題群について考える・II ～ものごとを多面的にとらえる力を育てる授業・実践～

編集・発行 / 静岡県教職員組合立教育研究所

「国際連帯と平和研究委員会」

〒420-0856

静岡市葵区駿府町1番12号 静岡県教育会館

発行者 / 教育研究所運営委員長 鈴木 伸昭

発行日 / 2014年 1月



<http://www.stu.jp/>

最後までお読みいただきありがとうございました。この所報をお読みになったご意見・ご感想をお聞かせください。皆さんからいただいたご意見・ご感想は、今後の研究活動や成果発信に生かします。

**STU Institute of Educational Research**  
**静岡県教職員組合立教育研究所**

**FAX: 054-255-5110**

**Mail: sier@stu.or.jp** (ご意見専用研究所メールアドレス)